

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 5 4 年 度

(1 9 8 0 年 3 月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 5 4 年 度

(1 9 7 9 年)

京都大学結核胸部疾患研究所職員及準職員

(昭和55年2月1日現在)

所 長 教 授 前 川 暢 夫

(内科学第一部門)

主任教授：前川暢夫，助教授：中西通泰，講師：川合 満，助手：西山秀樹，倉澤卓也，坂東憲司，講師（非常勤）：吉田敏郎，池田宣昭，今井節朗，角田沖介，中井 準，吉見輝也，松原恒雄，技官：西尾貞子，本間トキエ，技能補佐員：細木春世

(内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：小原幸信，講師：泉 孝英，助手：木野稔也，大山口渥，門 政男，松井祐佐公，西川伸一，講師（非常勤）：日置辰一朗，太田 鋤，中島道郎，浅田高明，福間謙助，杉本幾久雄，小松幹雄，川上一郎，佐藤篤彦，技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子

(胸部外科学部門)

主任教授：寺松 孝，助教授：伊藤元彦，講師：清水慶彦，助手：加藤弘文，和田洋巳，玉田二郎，渡部 智，講師（非常勤）：宮田暉夫，立石昭三，池田貞雄，北野司久，倉田昌彦，吉栖正之，秋山文彌，日野常稔，生島宏彦，外村聖一，伊東政敏，小林君美，人見滋樹，山本博昭，庄村東洋，技官：平井要

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，助手：鈴木康弘，細川昌則，講師（非常勤）：水島 裕，熊沢義雄，五十嵐三都男，馬場満男，鶴藤 丞，技官：松下隆壽，小岸久美子，技能補佐員：富田由美子

(細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，講師（非常勤）：佐渡敏彦，徳永 徹，堀川正克，事務官：清水一枝，技能補佐員：高沖悠子

(細胞化学部門)

主任教授：市川康夫，助教授：大川欣一，講師：永田和宏，助手：前田道之，堀内正宏，講師（非常勤）：三浦恭定，野々村禎昭，遠藤浩良，技官：竹内道子，事務補佐員：坪田晴子

(臨床肺生理学部門)

主任教授：佐川弥之助，助教授：加藤幹夫，講師：浅井信明，助手：佐藤公彦，講師（非常勤）：大橋啓吾，土肥佳郎，稻葉宣雄，安田隆三郎，真鍋 貴，久野健志，室本仁，市谷迪雄，石部裕一，仲田 祐，折田雄一，山

林一, 山田久和, 太田和夫, 技能補佐員: 服部央子, 石田嘉子

(事務部)

事務長: 小林 勇, 事務長補佐: 船谷幸司, 庶務掛長: 小谷雄太郎, 同主任: 近藤英子, 小林 収, 同事務官: 堀田良恵, 同技官: 田中 稔, 川原田和夫, 事務補佐員: 小倉恵美子, 経理掛長: 清水春男, 同主任: 佐藤良雄, 野元頼子, 同事務官: 奥村成和, 前野正世, 田中義郎, 事務補佐員: 中瀬安子: 収入掛長: 前田次郎, 同主任: 畠中秀雄, 同事務官: 野田芳子, 佐竹セツ, 藤井芳克, 山本正幸, 竹内孝子, 事務補佐員: 中村房枝, 集治昌代, 患者掛長: 田口雅朗, 同主任: 室恵美子, 同事務官: 橋本敏子, 事務補佐員: 賀屋俊子, 芦田明子, 山田啓子, 管理掛長: 田中信雄, 同事務官: 前田久男, 同技官: 進士 悟, 西川景曠, 岩井昭一, 松浦 康, 小西喜一郎, 藤木清文, 同事務官: 高安忠一, 水原貞子, 渡辺光子

(動物飼育室)

技官: 飛田勇, 門田一美, 大字雪雄, 安岡倉一, 近藤照子

(電子顕微鏡室)

技能補佐員: 森 敏博

(附属病院)

病院長(兼)教授: 佐川弥之助

(第一内科診療科)

科 長(兼)教授: 前川暢夫

外来医長(兼)講師: 川合 満

病棟医長(兼)助教授: 中西通泰

医員: 戸川真一, 牛田真一, 医員(研修医): 山田和範, 亀崎 洋

(第二内科診療科)

科 長(兼)教授: 大島駿作

外来医長(兼)講師: 泉 孝英

病棟医長(兼)助教授: 小原幸信

医員: 平田健雄, 本田和徳, 北市正則, 藤村直樹, 満安清孝

(外科診療科)

科 長(兼)教授: 寺松 孝

外来医長(兼)助教授: 伊藤元彦

病棟医長(兼)講師: 清水慶彦

医員: 宮本好博, 金城 明, 医員(研修医): 神頭 徹, 水野 浩

(放射線科診療部)

科 長(兼)教授: 佐川弥之助

外来医長(兼)講師: 浅井信明, 講師(非常勤): 阿部光幸

医員: 関川利幸, 鶴澤正仁, 医員(研修医): 矢野博正, 大成功一, 安井浩明, 李 勝弘

(検査部)

検査部長(兼)助教授: 久世文幸, 医員: 木下和之, 北市正則(兼), 技師長: 木津 啓, 技官: 前田清子, 黒住真史, 和田ひな, 増田 稔, 山根すま子, 技術補佐員: 中迫由美子, 田尻 睦, 技能補佐員: 橋本晴代

(放射線部)

放射線部長(兼)助教授: 中西通泰, 技師長: 浜川純一, 撮影主任: 蔵岡信良, 技官: 大坂泰夫, 曾我部康之) 灘井智代子, 田中龍蔵, 技能補佐員: 小林 忍

(薬剤部)

薬剤部長: 桑田 宏, 薬剤主任: 澤岡平和, 技官: 藤原壽子, 川田昌子, 小林千代子, 川勝一雄, 事務主任: 宇野初枝, 事務官: 関 保子

(看護部)

看護部長：細川ミツエ，看護婦長：松田比佐子，近藤信子，西森三保子，和多田すみ子，副看護婦長：小林とよ，斎藤千鶴子，山本喜美，技官：岩永千代子，高市政子，松本敏枝，田中松代子，小林梅野，松田富子，明石和子，小林富貴子，小川まゆみ，米山須磨子，阿部喜代子，柴田佐代子，大山峰子，岩佐純子，木田恵子，鈴木恵子，稲田ひろ子，山中祥子，小泉カスミ，榊喜久子，井藤泰子，濃野ヒロ子，大野洋子，福田千恵子，清水美位子，秋吉和子，丘 恵子，笠岡清江，稲垣美智子，松田初枝，二宮トミ子，村西直美，衛藤泰子，内藤敏子，平畑早苗，上里幸子，宮城登代子，渡部幸子，平良セツ子，島袋和美，亀田久美子，米澤カヨ子，勇 恵子，坂東フサエ，鬼界稚恵子，中村多美子，園田正子，広川一枝，能井美千代，森 朝子，片桐久江，内木カネ子，松本不二，原田芳香，技能補佐員：渡辺ヒデ子，山崎真人

教 官 人 事

内 科 学 第 二 松 井 祐 佐 公 助 手

昭和46年京都大学医学部卒業，昭和55年1月京都大学大学院医学研究科課程を修了した。出身地は静岡県。研究業績としては「MIF 及び LIF に関する実験的研究」がある。昭和54年2月助手に任命された。

内 科 学 第 二 西 川 伸 一 助 手

昭和48年京都大学医学部卒業。出身地は滋賀県。研究業績としては「ヒト免疫グロブリン産生機構に関する実験的研究」がある。昭和54年7月助手に任命された。

胸 部 外 科 学 渡 部 智 助 手

昭和46年京都大学医学部卒業，京大病院第1外科，麻酔科，京大胸部研外科にて外科全般の研修の後，昭和48年3月より神戸中央市民病院胸部外科に勤務，主に心臓血管外科に従事した。昭和50年，京都大学大学院医学研究科博士課程に入学，昭和52年より京大病院中央検査部病態学教室村地孝教授のもとで固定化酵素の人工臓器への応用について研究した。昭和54年4月から胸部研胸部外科学部門助手。人工臓器，特に生体機能性材料に興味を持ち研究を行なっている。今後に期待したい好漢である。(寺松 孝)

病 理 学 細 川 昌 則 助 手

病理学部門助手高橋権也の辞任に伴い，医員細川昌則が助手に任ぜられた(54.3.16)。細川昌則氏は昭和51年3月本学医学部卒業，同4月1日当研究所内科第一部門医員に採用され，診療研修のかたわら，当研究所病理部門において実験的研究を行うこととなった。其後，その慎摯な研究態度が評価されて，内科第一前川教授の同意のもとに，病理学部門医員に転出，更に同部門助手に任ぜられた。研究面では竹田助教授の結合織研究グループに属し，コラーゲンの生合成をめぐる問題に関心をもち，その柔道マンとして鳴らした偉大な体軀をもとで，グループの中心的存在として活躍中である。

細 胞 化 学 永 田 和 宏 講 師

昭和46年3月，京大理学部物理学科卒，森永乳業中央研究所(東京)の研究員となる。51年11月同研究所の職を辞し，当胸部研細胞化学部において研修員として研究に専念することとなった。54年春，平井君の医学部転出

のあと7月講師に採用された。

永田君のテーマは、「骨髓性白血病細胞の分化に伴う運動能発現メカニズムに関する生化学的研究」——もともと運動能をもたなかった白血病細胞がマクロファージに分化すると活発な運動能や貪食能を示すようになるが其れは何故か、どうして分化する前は動かなかったのか、何が変ったのか。これらのことを、アクチンやミオシンなど細胞内収縮性タンパクに注目しつつ解明したい、と云うものである。永田君自身の仕事もさる事ながら、生化学部門をもたない当研究所で、生化学的手法を駆使するグループの芽を育てたい、これは胸部研の研究ポテンシャルを高めるに役立つに違いない、永田君は充分其の任を果すだろう、このような念願が講師選考委員会にあった。

若い諸兄に提言したい。一度永田君の実験ノートを見せて貰ったらよい。よく言われるように、記載なくして新しい企画も構想も生れて来ない。彼の抜群の記載力によって、山のようなデータが、ノートいっぱい息づき躍っているのを見るだろう。そのドヨメキを聞かざらう。(市川康夫)

臨床肺生理学 佐藤公彦 助手

佐藤公彦君はラサール高校を経て京大医学部を昭和46年に卒業し、発足当時の臨床肺生理学部門に入局、以後、豊郷病院、縣立塚口病院医師として十分に実地臨床を修練し、54年4月に助手に就任した臨床肺生理学部門のいわば第1期生であり、同君の将来はそのまま臨床肺生理学部門の将来でもある。

同君は、臨床上得た疑問を直ちに自分の基礎的研究で解決していこうとする当研究所臨床部門の伝統をそのまま受けついでいる研究者で、現在、厚生省呼吸不全の班研究と真摯にとり組んでいる。また、入局以来、病理学教室の竹田助教授と肺繊維化の機序をめぐる協同研究を行なっている。

同君は自分を犠牲にしても他に尽くすという現在の若者に少くない性質をもっており、この人柄と旺盛な研究心は将来の臨床肺生理学部門を背負うものであると確信し、期待している。(佐川弥之助)

学術集会記録

I 昭和53年度学術講演会 (昭和54年1月27日, 京大会館)

1. マウスにおける寛容原抵抗性について

細菌血清学部門 細野正道

異種血清蛋白質を抗原としてマウスに免疫寛容の誘導を試ると、用いるマウスの系統差によって寛容誘導度が異なる。自己免疫疾患に陥る NZB マウスや Reticulum cell sarcoma が自然発生したり、抗 DNA 抗体が産生される SJL/J マウスでは寛容誘導が極めて難かしいが、寛容誘導難易性と主要組織適合性遺伝子群との間に相関性はみられない¹⁾。この寛容原抵抗性は、しかし、用いるマウスの週齢により異なり、NZB, SJL/J でも、週齢の小さい時にはほぼ完全な寛容誘導が可能となる²⁾。我々は、この加齢に伴う寛容原抵抗性の異常な発達が何らかの型で免疫異常・免疫疾患の一原因に成るものと考え、この寛容原抵抗性の発現機構について検討してきた。まず、寛容原抵抗性という点に注目し、比較的正常な生活史をたどるが、寛容原に対して強い抵抗性を示す DDD マウスを使用した。12週齢の DDD では寛容原 (ヒトγ-グロブリン) 前処理によって~50%の低反応が誘導されるに過ぎない(これに対して、寛容原に感受性の高い C57BL/6 では0.01%以下の低反応が誘導される)。この寛容原抵抗性は、脾臓内のヘルパーT細胞と骨髓内のB細胞の抵抗性が原因となり、A細胞は抵抗性の主因になっていない³⁾。骨髓内のB細胞については、加齢に伴う変化は検出できなかった。ヘルパーT細胞の寛容原感受性にリンパ節内のもの(寛容原感受性大)と脾内のもの(寛容原抵抗性大)に差がみられ、胸腺摘出、脾摘出、

再構築 (reconstitution) などの諸方法を用いた実験結果から、これら2つの細胞群は異なった亜集団に属するものと結論された⁴⁾。脾内ヘルパーT細胞の寛容原感受性に週齢差のあることが、週齢の違った個体からの脾T細胞を一定週齢個体からのB細胞と共存させて寛容誘導を試した実験結果から明らかになった。若い個体にみられる寛容原感受性の高い脾T細胞自体が抵抗性を示す集団に移行するのではないことは、再構築実験により示され、週齢差の出現は胸腺依存性であり、骨髄中の pre-T 細胞が週齢の進んだ胸腺内で分化・成熟すると寛容原に抵抗性を示す脾T細胞が出現する⁵⁾。また、寛容原抵抗性マウスの胸腺T細胞では、一旦誘導された寛容の消失速度は極めて速い。さらに、Pre-T細胞の寛容誘導度を調べても、寛容原抵抗性の動物では寛容になり離く、一旦誘導された寛容状態も直ぐに消失してしまう。遺伝的な差異がリンパ系幹細胞のレベルにまで及んでいると思われる。

- 1) Immunol. Commun., **6** 239 (1977)
- 2) Int. Arch. Allergy appl. Immunol., **53** 289 (1977)
- 3) Cell. Immunol., **42** 279 (1979)
- 4) Immunology, **37** 353 (1979)
- 5) Cell. Immunol., **44** 262 (1979)

2. 肺と脂質代謝

病理学部門 田畑良宏

肺表面活性物質は肺の構造と機能の維持にとって必要不可欠な因子であるが、この表面活性物質に対する必須脂肪酸の影響についてラットを使用して実験的研究をこころみた。2ヶ月間の必須脂肪酸欠乏食による処置の後、肺表面活性物質を抽出し Wilhelmy balance で表面張力を測定すると、最小表面張力の欠乏群での著明な上昇がみられた。そして肺表面活性物質の主成分である磷脂質のレシチン分析で量的には欠乏群で差はなかったが、しかしレシチンに含まれる脂肪酸の内、正常では70%以上をしめるパルミチン酸が欠乏群では60%と10%の減少があり、レシチンの質的な変化が必須脂肪酸欠乏により招来される事が判明した。

表面張力の表面活性作用を考える場合、分子量の少い飽和脂肪酸のパルミチン酸を2個含んだ、デ・パルミトイル・レシチンは気液界面での占有面積が小さく、表面活性作用が高いため、パルミチン酸が多く含まれる事は合目的であり、このパルミチン酸の含有率の低下は最小表面張力の上昇をきたす事は明らかである。そして肺圧の量曲線をしらべると、欠乏群の肺では表面活性作用の低下により対照群に比較し同じ圧力を加えても、肺の拡張は悪く、肺が硬くなっている事が判明した。肺では必須脂肪酸欠乏により、本来生体内で合成されているパルミチン酸のレシチン中の含有率の減少が生じる。これは従来の知識では説明困難な結果であり、事実、肝臓のレシチンではこのような変化はみられず、興味ある現象であって、肺ではレシチン合成経路が他の臓器とは異っている事を暗示していた。

特発性呼吸窮迫症候群 (IRDS) は未熟児の死因の上位をしめる疾患で、肺表面活性物質の機能不全が原因とされている。そこで私達は京大未熟児センターの症例で肺表面活性物質のレシチン分析と表面張力の測定によりその病因に検討を加えた結果、最小表面張力とレシチン量との間には逆相関関係があり、IRDS ではレシチン量が少く、最小表面張力が高く、表面活性作用の機能不全はレシチン量の不足によるとする従来の説を支持していた。しかしレシチンの脂肪酸分析で IRDS 群ではパルミチン酸の含有量が低下している傾向にある事がわかり、病因を考える場合、単に未熟児であるが故に肺が未熟で、肺表面活性物質の産生不足をきたしたと考えるとともに、肺表面活性物質の質的な変化による影響についても考慮してみる必要性が感じられた。

3. In vitro での白血球の分化

細胞化学部門 堀内正宏

多細胞生物における細胞の分化の問題は、総括的に言えば、単一の受精卵が如何にして生物体を構成する幾多の種類の種類に分化するのかという問題です。血球細胞に限っても同じ問題になります。血球細胞には少なくとも8種類の細胞がありますが、これらの元祖として血球幹細胞があると考えられています。問題を更にしぼると、

二方向に分化し得る細胞（バイポテンター）の分化の問題に帰着します。逆に言うならば、多方向分化の単位とも言える二方向分化の制御機構が解明されれば、血球幹細胞に付随する多方向分化の問題も明らかになると考えています。

マウスの腹壁の浸出液を刺激源としてプレート内で骨髓細胞にコロニーを作らせると、好中球のコロニー、マクロファージコロニー、および両者の混合コロニーが出来ます。従って好中球とマクロファージは近縁関係にあり、血球幹細胞を頂点とする分化系統樹の或る末端に近い所に、好中球とマクロファージの共通の前駆細胞があると考えられます。このバイポテンターが如何なるコントロール下で、或る時は好中球に、或る時はマクロファージに、又或る時は両者に分化するのかが研究の中心です。

①前述の腹壁浸出液で出来るコロニーの過半数が好中球コロニーです。②しかしこの液をトリプシン処理したもので、マクロファージのコロニーしか出来なくなります。しかもマクロファージコロニーの数は①に比べ②では著明に増加します。従って全コロニー数を①と②で比較すると大差がありません。これは何を意味するかと言うと、二つの場合が考えられます。(イ)バイポテンターが①の場合には好中球コロニーを作り、②ではマクロファージコロニーを作った。(ロ)①、②いずれの場合もコロニーを作ったのはマクロファージ系前駆細胞および好中球系前駆細胞だけである。未処理の浸出液中にはマクロファージの成育を抑える因子があった為に、多くのマクロファージ系前駆細胞が成育し切れずコロニーとして算定されなかった。トリプシン処理でこの抑制因子および好中球増殖因子が不活化された為に、②では本来あったマクロファージ系前駆細胞が全てコロニーを形成し、①に比べて著明に増加したように見えた。

①、②の現象を主にプロデュースしているのは(イ)説か(ロ)説か、を明らかにする為に、コロニー形成細胞を分画遠心により精製し（すなわちプレートに50ヶ細胞をまけば50近いコロニーが出来る）、上記①、②の実験を繰り返しました。結果は①の場合にコロニーとして算定されない潜在のマクロファージ系前駆細胞はないということになりました。

<結論> 好中球—マクロファージ系のバイポテンターは液性因子の影響で、或る時は好中球コロニー、或る時はマクロファージコロニーを作ることが判明した。

4. 細胞内の菌に対する化学療法

内科学第一部門 西山 秀 樹

白血病患者は感染症に罹り易く、しばしば難治性である。この易感染性の要因として、先づ、白血球数の減少が挙げられるが、白血球機能の低下も重要な要因の一つである。白血球中、感染防御の第一線を担うものは好中球である。私達は、骨髓性白血病患者末梢血中の好中球に大腸菌を貪食させ、好中球の貪食殺菌能を検討して来た。正常人好中球は貪食した大腸菌の99%以上を貪食後、速かに殺菌するのに対し、骨髓性白血病患者好中球は、貪食能、殺菌能共に有意な低下を認めた。更に、白血病患者好中球に大腸菌を貪食させ長時間培養すると、貪食された大腸菌は、好中球内で殺菌されず、むしろ増殖し、好中球を破壊し、細胞外に遊出して来る例を認めた。

現在繁用される抗菌剤の多くは白血球内にほとんど移行し得ない。従って殺菌能の低下した好中球に於ては、貪食された細菌は、貪食された事により、抗菌剤の殺菌効果から保護される事になり、この事が難治性感染症の一因と考えられる。殺菌能の著明に低下した好中球に大腸菌を貪食させた後、培養液中に10MICのCETを60分添加し、洗浄後長時間培養すると、大腸菌は著明な増殖を示した。一方、1MICのCETを持続添加した場合は、大腸菌の増殖を抑制し得た。この事は、好中球内で増殖し、好中球を破壊して細胞外に遊出した大腸菌を、細胞外に持続的に添加したCETが殺菌したものと考えられる。従って、殺菌能の低下した好中球を有する患者の感染症に対する抗菌剤の投与に当っては、感受性薬剤のMICを持続的に保つ事が有効であると思われる。殺菌能の著明に低下した好中球に大腸菌を貪食させた後、各種抗菌剤を添加培養後、生残菌数を算定すると、ほとんどの抗菌剤添加群で菌数の減少は認められなかった。この事は、多くの抗菌剤は好中球内の細菌に対して無効である事を示唆している。この添加抗菌剤中、RFP, SMX-TMP (S-T合剤)の二剤は、著明な生残菌数の減少を示し、好中球内細菌に対しても有効であると考えられた。そこで、この二剤の白血球内への移行を、*Bacillus subtilis*に対する発育阻止濃度に依り測定した。CETは白血球内にほとんど移

行し得ないのに対し、RFPは白血球内外で同濃度を示し、高い白血球内移行を示した。又S-T合剤については、SMXの白血球内濃度は極めて低値であったが、TMPは、白血球内外で同濃度を示し、高い白血球内移行を示した。この二剤は共に脂溶性であり、この事が細胞内移行性の要因と思われる。compromised hostの難治性感染症が注目されている現在、白血病のみならず、種々の病態で白血球機能の低下が報告されて来ている。このような病態を有する感染症の化学療法に当たり、感受性抗菌剤の撰択の重要性は当然の事ながら、host-parasite-drug relationshipに基づいた化学療法が重要であると思われる。

5. 癌患者血清の免疫抑制作用を用いた肺癌の血清学的診断の試み

内科学第2部門 泉 孝 英

1. 肺癌患者血清は、マウス脾臓の羊赤血球(SRBC)に対する抗体産生細胞(PFC)の産生を抑制する。2. 肺癌以外の疾患、サルコイドーシス、肺結核、慢性ペリリウム肺、外因性アレルギー性肺炎、肺化膿症、じん肺症などの患者血清にも、同様なPFC産生抑制効果があるが、肺癌患者血清は、血清投与後のSRBC投与までの期間が長くとも抑制効果を示す。3. 肺癌血清は suppressor cell の誘導を通じて、PFC産生に抑制的に作用している、ことなどについては、日本内科学会、臨床免疫学会、日本アレルギー学会などにおいて報告した。この肺癌患者血清に特徴的なPFC産生抑制作用を用いた肺癌の血清学的診断法 immunosuppression test (IS-test) を考案検討し、若干の知見を得たので報告した。

検索方法：被検血清、対照群は生理食塩液0.4mlをC₃H/He雌マウス(1群5匹)に静注投与した。血清は56°C30分非働化処置を行なった後使用した。血清投与5日目にSRBC 10⁸を静注感作を行ない、感作4日目に脾臓を摘出し、Cunningham & Szenbergの方法に準じて、anti-SRBC-IgM・PFC数を測定した。血清投与群のPFC数を対照群のPFC数と比較し、t検定を行ない、有意差群(p<0.05)をIS-test(+)と判定した。

結果：肺癌46例/59例(78%)；肺癌臨床病期分類に従って、I期7例/14例、II期25例/27例、III期4例/6例、IV期10例/12例であった。組織型による差異は認めなかった。転移性肺腫瘍4例/5例、胸腺腫2例/2例、カルチノイド1例/1例、良性腫瘍0例/3例、健常人および非癌症例4例/68例(10%)；健常人1/15例、サルコイドーシス2例/8例、肺結核1例/11例、その他の肺疾患(肺化膿症5例、肺炎7例、じん肺4例、肺気腫3例、気管支拡張症2例、アレルギー性肺炎2例)には陽性例はなかった。

総括：肺癌患者血清の免疫抑制作用を用いたIS-testは、従来行なわれてきた他の血清学的診断法と比較すると、①肺癌における陽性率(78%)が高い、②健常人および非癌症例における偽陽性率(10%)が低い、などの成績が得られ、今後さらに広範囲な検討と、肺癌血清中の免疫抑制活性物質の検討を行なうべき可能性が示された、と考えたい。

本報告の要旨は、Cancer Research 40:444~447, 1980に掲載された。

6. 悪性胸腺腫の臨床と病理

胸部外科学部門 和田 洋 己

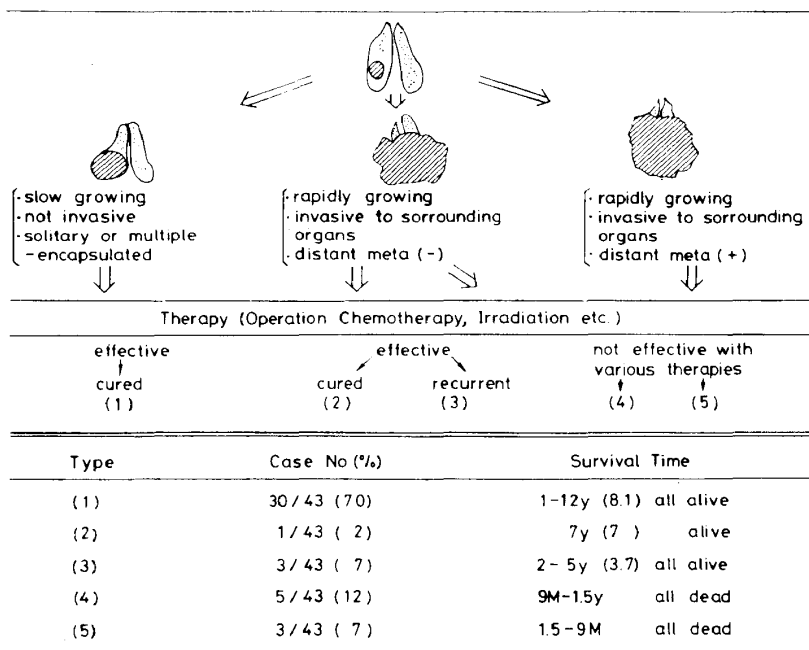
胸腺腫は発生頻度の高さ、特異な臨床症状などから、縦隔腫瘍の中の中心的存在である。一般に、胸腺腫において、良性、悪性の決定は、病理所見からのみでは困難であることが多く、これに加えて臨床進展様式を勘案して決定させる。我々は浸潤性または再発を繰り返したものを悪性と規定した上で、以下のことを検討した。胸腺腫は、京大胸部研1967~1978年、12年間において、全縦隔腫瘍128例中43例、36%であり、そのうち浸潤性は13例(胸腺腫中30%)であった。

胸腺腫は、現在、胸腺上皮細胞の腫瘍であり、リンパ球は随伴して起こる反応と考えられている。この上皮細胞に注目して、病理組織学的に検討を加えた場合、臨床経過と病理像の間に大きな差が存在する。すなわち、浸潤性と非浸潤性の間に、腫瘍細胞の形(円形、卵円形、紡錘形、混合形)、核の異型性などにはほとんど差異は認められず、ただ一点、間質の線維化、コラーゲン反応が、浸潤性でより強く認められたことが、両者の差異といえよう。

胸腺腫を臨床経過から分類してみると、表に示す如く、増殖速度が遅く、非浸潤性で、単発または多発でも被包化しているもの (I 型)、増殖速度は速く、周囲臓器に浸潤してはいるが遠隔転移のないもので、この型は治療に反応する臨床経過により、(II), (III), (IV) 型と分けられ、最後に進展が速く、浸潤性で遠隔転移があるもの (V) 型と分類される。(後の検討で V 型は、胸腺胎児性癌と考える方が妥当と判った。) I 型は臨床的には良性としてよく、70% を占め、I, II 型は可及的切除と放射線照射でかなりの治療成績を期待しうが、以上の治療においても効果のない症例が 12% に及んでいる。V 型を示す胎児性癌は、切除、放射線、化学療法のいずれを施しても非常に悪い。

いずれにせよ、胸腺腫の治療は、臨床経過が病理所見より重要な位置を占め、発見次第できるだけ早期に切除をし、必要なら放射線、薬物療法等の他の治療法を行なうことが、この疾患の治療成績を上げる重要な点と考えられている。

Clinical Course of Thymoma and Germ Cell Tumor



7. 低酸素血症をめぐる2-3の問題、特に高低両レベル O₂ 吸入による $\dot{V}A/\dot{Q}$ 不均等の検出法について

臨床肺生理学部門 加藤 幹 夫

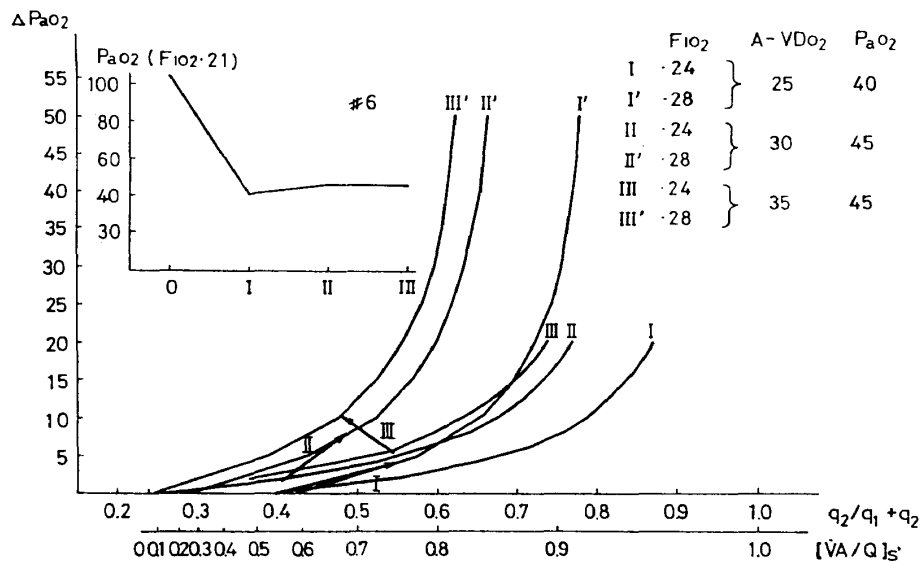
吸入 O₂ 濃度 (F_IO₂) の増加に対する動脈血 O₂ 分圧の増加 (ΔP_{aO_2}) を決定する要因は、肺内の換気-血流比 ($\dot{V}A/\dot{Q}$) 分布の状態である。しかし $\dot{V}A/\dot{Q}$ の分布を簡便に直接測定する方法が開発されていない現在、低酸素血症の患者に対して既知濃度の O₂ を吸入させた場合の ΔP_{aO_2} を予測することは不可能である。1967年、King and Briscoe は Bohr isopleth を利用して $\dot{V}A/\dot{Q}$ line と Hb 解離曲線および Bohr isopleth との交点から肺毛細管血液 P_{O₂} を算出することにより、2レベルの F_IO₂ の下で得られた P_{aO₂} から作図法によって $\dot{V}A/\dot{Q}$ 分布を高 $\dot{V}A/\dot{Q}$ 成分 (fast space) と低 $\dot{V}A/\dot{Q}$ 成分 (slow space) との2つの compartment に分離する方法を発表した。この方法は幾多の前提を必要とし、かつ高 $\dot{V}A/\dot{Q}$ 値の指定によってその得られる解が無数になる点および作図法にともなう誤差など難点は少なくないが、演者は後者の欠点を改良する目的で解離曲線については Kelman の subroutine を用い、肺胞気式との組み合わせによって step 演算を行なって各種の条件の下での ΔP_{aO_2} と2つの compartment の間の血流比との関係をあらかじめ求めてグラフ化することを試みた。(ΔP_{aO_2} - $\dot{V}A/\dot{Q}$ カーブ)

図はその1例を示すものであって、曲線 I, II, III は F_IO₂=.24, I' II' III' は F_IO₂=.28 の場合で fast space の

$\dot{V}A/\dot{Q}$ を1.3と指定し, A- $\dot{V}D_{O_2}$ および P_{aO_2} をそれぞれ図の右上に示すような条件に設定した場合の ΔP_{aO_2} と全血流量に対する slow space からの血流比 $q_2/(q_1+q_2)$ との関係を示すものである。また横軸の下段は $q_2/(q_1+q_2)$ に対応する slow space の $\dot{V}A/\dot{Q}$ 値を示すものである。すなわち、これらの曲線の上で各点が極端に移動する場合を考えてみると、これは2つの compartment の間での $\dot{V}A/\dot{Q}$ 値の差が極端に大きい低 $\dot{V}A/\dot{Q}$ からの寄与が比較的小さい場合（たとえば比較的小範囲の肺動静瘻による解剖学的シャトンのあるような場合；仮にシャトン型と呼ぶ）に相当し、右方に移動するのに従って2つの compartment の間の不均等の程度が減少することを示す。また $q_2/(q_1+q_2)=0.5$ 附近に近づくと2つの compartment の間の $\dot{V}A/\dot{Q}$ の差はあまり大きくはないが、全肺血流量に対する各 compartment からの血流の寄与が1:1に近くなり、血流に対する $\dot{V}A/\dot{Q}$ 分布の巾が大きくなっていくような場合（仮に $\dot{V}A/\dot{Q}$ 不均等型と呼ぶ）を想像することができる。

演者は10頭の雑種犬についてオレイン酸静注による肺水腫進展の時間的経過を追いながら $FI_{O_2}=.24$ および $FI_{O_2}=.28$ に対する ΔP_{aO_2} を測定し, A- $\dot{V}D_{O_2}$ および P_{aO_2} の測定値に対応する $\Delta P_{aO_2}-\dot{V}A/\dot{Q}$ カーブを選び出してその上にプロットした。図中の矢印はその1例を示すものであるが I I', II II', III III' はそれぞれオレイン酸静注後1, 2, 3時間の測定値に対応し, I → I', II → II', および III → III' を示すそれぞれの矢印は FI_{O_2} を .24 から .28 に変化させたときの ΔP_{aO_2} 点を結んだベクトルである。各時期におけるベクトルの方向の変化からオレイン酸肺水腫にともなう低酸素血症が $\dot{V}A/\dot{Q}$ 不均等型からシャトン型に移行することがわかる。また同様の傾向は全例において観察された。

以上の事実から King and Bricos の方法による2 compartment 分析法が定性的に $\dot{V}A/\dot{Q}$ 不均等を反映する有効な方法であると結論づけることができた。



8. 最近の市中病院における呼吸器疾患の動向

京都市立病院 日置 辰一郎

市中病院における呼吸疾患の動向と、呼吸器科専門医が行っている診療・検査及び他の診療科医師との対診状況を調査した。市中総合病院にもそれぞれの特異性があり呼吸器科が独立している病歴統計で分離して調査出来るものは僅かであった。従って呼吸器疾患の種類など細かい調査の大半は京都市立病院呼吸器科の実状を述べ一般の病院を類推して呼吸器疾患の動向を求めることになった。

近年肺結核の急速な減少は周知のことであるが、疾患群別死因統計によると今尚日本全体で死亡の1.2%を占めている。COPD を含ませた肺炎及び気管支炎群の死亡はその4倍以上(5.2%)あって所謂三大死因に次いだ日本人の死因である。肺癌の増加の傾向は著明で、その死亡は今では結核の死亡の殆んど2倍(2.2%)になっている。近時日本人は病院で死亡する率が急速に増大して最近60%を超えた。病院を利用し病院で死亡する疾患と

表 京都市立病院呼吸器科（ベット50）における疾患群別年間入院患者数の推移（'68~'78）

	総 数	肺不全	結 核	腫 瘍	肺 炎	胸 水	気 胸	その他
'68	127	24	61	13	13	11	5	0
'69	173	37	75	21	12	15	8	5
'70	197	51	52	27	14	28	18	7
'71	258	60	65	46	20	35	13	19
'72	301	90	59	65	27	25	20	15
'73	287	94	52	66	17	31	17	10
'74	258	72	37	57	21	26	20	25
'75	269	75	46	59	19	35	23	12
'76	267	57	47	63	27	31	23	19
'77	247	50	49	73	20	18	28	9
'78	271	49	49	96	26	18	16	17

（肺不全群：喘息・COPD の増悪による入院）

して悪性腫瘍が当然多いことが予想されるところである。京阪神の総合病院では最近死亡退院患者の中の悪性腫瘍患者の割合が50~70%を占めて来ている。肺癌の増加の率は更に大きく、その死亡は呼吸器疾患の死亡退院の70~90%に達している。

呼吸器疾患の種類をみる為に京都市立病院における最近10年間の入院患者の疾患群別の年間入院数を表示した。10年前には肺結核患者の入院が多く在院日数も長くベット回転が悪くて年間入院総数が少ない。その後約5年その数が次第に増加しているのは長期入院患者の減少によるものである。疾患群の中で肺腫瘍の増加が最も目立つ。肺不全と仮に表示した疾患群も増加しているが5年前で頭打ちに見える。これは気管支喘息に対して外来診察室に半日位の点滴処置が行えるようにしたことにより、増加しかけた喘息発作による短期入院を減少させたことと、COPDなどの低肺機能患者に対して入院外来を一貫して管理し在宅でのO₂投与も指導し入院の増加をおさえた為でもあろう。その為に呼吸器科外来の患者はこのグループの増加が著明で外来患者数の半数以上を占めて来た。外来患者の残り半数の更に2/3は肺内の限局性異常陰影を認める疾患（肺炎・肺癌・肺結核など）で院内外からの紹介で来院している。残りは胸水貯溜と気胸が多く、それ以外の疾患は極く小数に過ぎない。

以上の呼吸器疾患に対応する病院での検査・治療として肺内異常陰影に対する組織診断の為に生検と肺機能障害に対しての機能検査特に血液ガス測定の頻度とが急速に増大している。また低肺機能者の急性増悪防止の為に患者管理の工夫も行われている。肺の感染症は高令者で予後が悪いが適確な抗生剤が奏効するまでの間、心肺機能を庇護して救命すべく努力されている。合併症などで呼吸器科から他科への対診は入院患者の略半数に行われ、内科入院患者の10%に呼吸器科への対診が求められている。呼吸器科医師も広い総合的な臨床医学知識を要すると考えられる。

9. 肺移植の問題点

東北大学 抗酸菌病研究所

外科学部門 仲 田 祐

肺組織が高度に破壊された呼吸不全患者に対して、肺移植が最も理想的な治療法であることに異論をさしはさむ余地はないと考える。肺移植手技は一応完成の域に達したと思うが未だ幾多の問題点が存在する。

- 1) Donor 肺入手と保存の困難性
- 2) 移植早期の肺機能低下 (reimplantation response)
- 3) 移植肺感染のコントロールの困難性

肺は気管を通して大気と通じて居り、移植肺では咳嗽反射の消失、セン毛運動の減少、wet lung の発来、これに加えるに抗移植免疫剤は感染発生を容易にしている。

4) 移植肺吻合部の狭窄の発生

5) 肺神経切断の影響等であるが太凡解決されつつある。しかし最も重要な拒絶反応の発来予知、又この対策が確立されていない。

特に拒絶反応は、肺水腫発来につながると云う他の臓器にみられない致命反応として現われることに心しなければならぬ。

II 胸部研談話会

第9回 54年2月22日 西川伸一(内Ⅱ): ヒト末梢血リンパ球の機能に関する研究

第10回 54年9月20日 細野正道(細菌血清): ハプテン修飾細胞の同系リンパ増殖刺激性; その個体発生

喜納辰夫(細菌血清): マウスの polyclonal Ig 産生におけるウイルス感受性T細胞の役割

III 特別ゼミナール (54年度)

87回 6月10日 組織肥胖細胞の起源…局所分化について (大阪大学医学部) 北村 幸彦

88回 10月27日 肝癌発癌における前癌病変 (山口大学医学部) 沖田 極

89回 12月7日 カーボックアンヒドラーゼの細胞化学的反應の特異性と胃における局在 (福島医科大学) 菅井 尚則

業績目録

内科学第1部門

〔学会発表〕

1. 結核, 非定型抗酸菌症

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 武田貞夫, 倉沢卓也, 西山秀樹, 坂東憲司, 戸川真一, 賀戸重允, 長谷光雄: 結核化学療法施行前の喀痰中結核菌の耐性検査成績, 第54回日本結核病学会総会(昭54.4)

前川暢夫, 山鳥英世, 池田宣昭, 馬淵尚克, 井上昇, 稲掛英男: 結核菌に対するアミノ配糖体およびポリペプチドの相互交叉耐性について, 同

磯部喜博, 岡本博史, 直木由太郎, 合田 博, 陶棟土, 池田宣昭, 小沢 晃, 山内立夫, 馬淵尚克, 井上 昇, 前川暢夫: RFP 使用症例の検討(第3報), 同

前川暢夫他(共同研究)結核療法研究協議会: 初回治療における 1NH-RFP-EB 併用と 1NH-RFP-PZA 併用の比較に関する研究, 同

前川暢夫他(共同研究)結核療法研究協議会: 入院時薬剤耐性に関する研究, 同

前川暢夫, 川合 満, 馬淵尚克: 結核化学療法の強化に関する実験的研究(1), 日本結核化学療法研究会総会(昭54.6)

前川暢夫, 川合 満, 馬淵尚克: 結核化学療法の強化に関する実験的研究(2), 同,

前川暢夫, 池田宣昭: RFP 使用症例の検討, (第3報), 同

Fumiyuki Kuze, Nobuo Maekawa: In vitro and in vivo effects of various drugs to atypical mycobacteria. First International conference on atypical mycobacteria, 9. 1979. Denver.

李 英徹, 久世文幸, 前川暢夫: ポピドンヨードの結核菌に対する殺菌効果, 第45回日本結核病学会, 第15回

日本胸部疾患学会, 近畿地方会, (昭54.10)

倉沢卓也, 前川暢夫, 岩田猛邦: 種々の合併症を有する結核患者の治療の問題点, 同

前川暢夫, 久世文幸, 李 英徹: シリコンスライド培養法を用いた諸種消毒剤の試験管内殺菌効果, 日本結核化学療法研究会総会, (昭54,12)

2. 腫瘍

倉沢卓也, 前川暢夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 蔵田駿一郎: 持続的に高 Ca 血症を呈した肺癌の1症例, 第30回肺癌学会関西支部会 (昭54.2)

網谷良一, 藤井謙裕, 望月吉郎, 種田和清, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦, 倉沢卓也, 前川暢夫: 原発性肺癌による癌性胸膜炎に対する Carboquone, 5-FU の胸腔内注入療法の効果, 同

波多 信, 黒田 昭, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準他: 同一病巣に肺癌と肺結核の混在した1症例, 同

岩田猛邦, 藤井謙裕, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 笹沼竹雄, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦, 倉沢卓也, 前川暢夫: 腎癌組織内への転移を認めた原発性肺腺癌, いわゆる cancer to cancer の1剖検例, 同

戸川真一, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 興味ある縦隔腫瘍の2症例, 同

黒田 昭, 波多 信, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準, 他: 肺乳頭腫の1症例, 同

網谷良一, 藤井謙裕, 望月吉郎, 種田和清, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 松原恒雄, 北野司久, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦, 倉沢卓也, 前川暢夫: 原発肺癌における細胞診及び肺生検による組織型診断の信頼性についての検討, (第19回日本胸部疾患学会総会 (昭54.4))

望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 笹沼竹雄, 松原恒雄: 経過中自然気胸を併発した空洞性肺癌の1例, 第31回肺癌学会関西支部会 (昭54.7)

玉木長良, 石原享介, 森 徹, 中井 準: 胸水 CEA の基礎的・臨床的検討, 第45回日本結核病学会, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭54.10)

戸川真一, 前川暢夫, 黒住真史, 山根すま子, 細川昌則, 木下和之, 鈴木康弘, 竹田俊男: 燕麦細胞癌との鑑別に困難を伴い, 広範な皮下転移を示した atypical bronchial carcinoid の1症例, 第18回日本臨床細胞学会秋期大会 (昭54.11)

3. 感染症の化学療法

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 倉沢卓也, 西山秀樹, 坂東憲司, 戸川真一: T-1551 の呼吸器感染症に対する臨床的研究, 第27回日本化学療法学会総会, (昭54.6)

前川暢夫, 中西通泰, 倉沢卓也, 坂東憲司: BL-S 578 の呼吸器感染症に対する臨床的研究, 同

前川暢夫, 中西通泰, 久世文幸, 坂東憲司, 賀戸重允, 石橋達雄: Netilmicin の呼吸器感染症に対する臨床的研究, 第26回日本化学療法学会東日本支部会, (昭54.11)

前川暢夫, 中西通泰, 塩田憲三他: (共同研究) 急性気道感染症を対象とした CGP-9000 と Cephalexin との比較試験成績, 第27回日本化学療法学会, 西日本支部総会, (昭54.12)

4. 気管支喘息

宗重 彰, 浜西正三, 富井秀明, 阪井 胖, 三嶋理晃, 久野健志, 川合 満: 副腎皮質ステロイドをやむなく長期大量投与した母体ならびに新生児の観察例, 第53回兵庫県産婦人科学会総会, (昭54.6)

江田昭英, 中村邦祐, 川合 満, 前川暢夫: 1-methyl-4-isoheptyl-cyclohexane carboxylic acid (IG-10) の抗アレルギー作用, 第29回日本アレルギー学会総会, (昭54.9)

K. Ito, M. Iwakura, M. Kawai, A. Hamada: A double blind study on Tiaramide in the treatment of bronchial asthma, X International Congress of Allergy, Jerusalem, (1979, Nov.)

5. その他

田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 笹沼竹雄: 肺化膿症及び大葉性肺炎を別々の肺に生じたマイコプラズマ肺炎の1例, 第99回日本内科学会近畿地方会 (昭54.9)

梅田文一, 波多 信, 石原享介, 黒田 明, 岩崎博信, 山田栄一, 中井 準: “saber-sheath” (〆刀鞘〃型) 気管の1例, 第45回日本結核病学会, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭54.10)

岩田猛邦, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄, 酒井正彦: くりかえす胸水貯溜, 血痰を主訴とした慢性肺炎の1症例, 同

岡田英彦, 倉田昌彦, 永見義隆, 室本 仁, 藤田正憲, 石井昌生, 内藤祐子: 肺胞蛋白症の1例, 同

光岡明夫, 宮本好博, 北野司久, 岩田猛邦, 友永 轟, 楠原健嗣: 僧帽弁閉鎖不全症に伴った pulmonary ossification の1例, 同

藤井謙祐, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦, 倉沢卓也: 自然気胸で発症し, 肺肝を主に急速に進行した Peliosis の1例, 同

倉沢卓也, 戸川真一, 坂東憲司, 西山秀樹, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 松原恒雄: 体動脈一肺動脈瘻の2症例, 同

市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 小田芳郎, 内平文章: 過敏性肺臓炎の1例, 同

網谷良一, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 松原恒雄: 顕著な気管支拡張を伴った右肺形成不全と考えられる1例, 同

〔誌 上 発 表〕

1. 結核, 非定型抗酸菌症

前川暢夫: 難治結核の治療, 治療学, 2: 747~753, 1979.

内藤祐子, 久世文幸, 前川暢夫: 抗酸菌の臨床細菌学的同定に関する一考察, 結核, 54:481~490, 1979.

内藤祐子, 久世文幸, 前川暢夫: 非定型抗酸菌の諸種薬剤に対する感受性, V, Mycobacterium intracellulare に対する主としてアミノグリコシド系抗生物質の試験管内制菌作用, 結核, 54:423~427, 1979.

久世文幸, 李英徹, 前川暢夫, 鈴木康弘: 実験的非定型抗酸菌症に関する研究(2), mycobacterium intracellulare (米国株) 感染マウスに対する抗結核薬の併用効果—経尾静脈感染の成績, 結核, 54:453~460, 1979.

中西通泰, 肺結核症, 分担執筆, 今日の治療指針 p. 189-190, 医学書院, 1979.

2. 気管支喘息

川合 満, 馬淵尚克, 池田宜昭, 戸川真一, 李英徹, 内藤祐子, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 気管支喘息患者に対するプロカテロールの使用経験, 臨床と研究, 56:965~972, 1979.

前川暢夫, 川合 満, 伊藤和彦他: (共同研究) 慢性閉塞性肺疾患に対する Ipratropium Bromide (Sch 1000) の長期投与による臨床効果, 臨床と研究, 56:1633~1646, 1979.

前川暢夫, 川合 満, 伊藤和彦他 (共同研究): Procterol (OPC-2009) 錠の連続投与による抗喘息効果の検討, 一全国29施設共同成績, 診断と治療, 67: 376~388, 1979.

前川暢夫, 川合 満, 浜田朝夫他 (共同研究): Procatecol (OPC-2009) 錠の頓用投与による気管支拡張効果の検討—全国29施設共同成績, 現代医療, 11:225~236, 1979.

前川暢夫, 川合 満, 塩田憲三他 (共同研究): 二重盲検試験による慢性閉塞性肺疾患に対する Ipratropium Bromide (Sch 1000) の臨床成績, 医学のあゆみ, 110:636~660, 1979.

3. 感染症の化学療法

川合 満, 前川暢夫: 呼吸器疾患患者に点滴静注した場合の Dibekacin (DKB) の血中濃度について, 基礎と

臨床, 13:175~177, 1979.

前川暢夫, 中西通泰, 塩田憲三他 (共同研究): 肺炎に対する Cefoxitin と Cefazolin の薬効比較試験成績, *Chemotherapy* 27:3~58, 1979.

前川暢夫, 中西通泰, 塩田憲三他 (共同研究) 細菌性肺炎に対する Bacampicillin と Amoxycillin の薬効比較検討成績, *Chemotherapy* 27:725~759, 1979.

前川暢夫, 中西通泰, 賀戸重允, 長谷光雄, 松原恒雄, 岩田猛邦, 倉沢卓也, 種田和清, 網谷良一, 塩田憲三他 (共同研究): 呼吸器感染症に対する Cefmetazole (CS-1170) と Cefazolin の二重盲検法による薬効比較成績, *Chemotherapy* 27:581~651, 1979.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 西山秀樹, 坂東憲司, 細川昌則, 小田芳郎, 望月吉郎: 呼吸器感染症に対する Cefamandole の臨床検討, *Chemotherapy* 27: S-5, 249~252, 1979.

4. その他

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 松原恒雄, 岩田猛邦, 吉田敏郎, 池田宣昭, 小沢 晃, 岩井嘉一, 山田栄一, 角田沖介, 中井 準, 小川暢也: エンピナーズ-P (KPC) の喀痰喀出困難症に対する効果, 二重盲検法による検討, *臨床と研究*, 52:3373~3382, 1975.

梅田文一, 高塚勝哉, 波多 信, 黒田 昭, 石原享介, 岩崎博信, 山田栄一, 中井 準, 中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之: 外傷性縦隔血腫の1例, *日胸疾会誌*, 17:321~325, 1979.

中西通泰: 気管支拡張症の成因と副鼻腔炎との関連, いわゆる Kartagener's syndrome について, *医学のあゆみ*, 110:C, 26~35, 1979.

山本孝吉, 笹田昌孝, 小西 博, 上田孝典, 内田三千彦, 沢田博義, 中村徹, 内野治人, 西山秀樹, 前川暢夫: 白血病患者好中球貧食殺菌早期過程の解析 (第21回日本臨床血液学会総会抄録), *臨床血液*, 21: 補冊1, 52, 1979.

前川暢夫, 加藤幹夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 泉孝英, 倉沢卓也, 西山秀樹: 臨床医学の展望—呼吸器病学, *日・医・新*, No. 2861, 10~17, 1979.

Michiko Kamada: Distribution of ⁶⁷Ga-citrate in tumor tissues and various organs, macroautoradiographic and scintigraphic studies, *Radiotopes*, 27: 390~396, 1978.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 小田芳郎, 江部康二, (分担執筆): 呼吸器学, 金芳堂, 1979.

中西通泰: 胸部疾患と疑似急性腹症, *看護技術*, 25: No. 15, 44~52, 1979.

中西通泰: 呼吸器疾患とその薬物療法, *医薬ジャーナル*, 15:103~105, 1979.

中西通泰, 前川暢夫: 宿主条件と肺—全身疾患と肺, (分担執筆), *図説臨床内科講座*, 7巻, 288~293, メジカルビュー社, 1979.

中西通泰: 最近の呼吸器疾患—診断と治療, 1, 気管支拡張症, 中外製薬, 1979.

〔研究会・その他〕

西山秀樹: 細胞内の菌に対する化学療法, 昭和53年度研究所学術講演会 (昭54.1)

前川暢夫, 中西通泰: T-1551 研究会, (昭54.1)

前川暢夫, 中西通泰: NK-631 研究会, (昭54.1)

前川暢夫, 中西通泰: HR-756 研究会, (昭54.1)

前川暢夫, 中西通泰: CGP-9000 研究会, (昭54.2)

中西通泰: Netilmicin 研究会, (昭54.5)

川合 満: IG-10 研究会, (昭54.5)

前川暢夫, 中西通泰: Adriacin 研究会, (昭54.6)

山田栄一, 波多 信, 黒田 明, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 肺線維症と肺癌の合併例, 第14回兵庫肺癌懇話会, (昭54.7)

中西通泰: KW-1062 研究会 (昭54.8)

- 中西通泰：呼吸器感染症研究会（昭54.8）
 中西通泰，前川暢夫：肺癌治療における Picibanil の使用経験，京滋腫瘍の免疫療法研究会，（昭54.8）
 前川暢夫，中西通泰，川合 満：NA-872 研究会（昭54.8）
 川合 満：最近の喘息治療の考え方，第8回奈良県喘息治療研究会（昭54.6）
 前川暢夫，中西通泰：CGP-9000 研究会，（昭54.9）
 前川暢夫，中西通泰：HR-756 研究会（昭54.10）
 前川暢夫，中西通泰：T-1551 研究会（昭54.10）
 前川暢夫，中西通泰：PC-904 研究会（昭54.10）
 前川暢夫，中西通泰：SCE-1365 研究会（昭54.10）
 川合 満：最近の気管支喘息における薬物療法について，診療内容向上の会（昭54.10）
 中西通泰：HR-756 研究会（昭54.11）
 黒田 明，日野 恵，藤見勝彦，波多 信，石原享介，岩崎博信，梅田文一，山田栄一，中井 準：原発肺癌
 よう進展をみせた malignant lymphoma の1例，第15回兵庫肺癌懇話会（昭54.11）
 中西通泰：HR-756 研究会，（昭54.11）
 前川暢夫：結核化学療法の諸問題，京都府医師会学術講演会，（昭54.11）
 中西通泰：呼吸器感染症と抗生物質，福知山，綾部医師会学術講演会，（昭54.12）
 岩崎博信，黒田 明，石原享介，中井 準他：縦隔への放射線治療中に両側性の気胸をきたした悪性リンパ腫
 の1症例，兵庫がん化学療法研究会，（昭54.12）

内科学第2部門

1. 免疫学の基礎的領域に関する研究

〔学会・研究会発表〕

- 西川伸一，泉 孝英：ヒト・リンパ球における PPD による免疫グロブリン産生 II. ヘルパー機能の解析，
 第42回実験結核研究会総会，（昭54.4.4）
 泉 孝英，西川伸一，平田健雄：PPD によって誘導されるヒト末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生に關する
 研究，第7回日本臨床免疫学会総会，（昭54.6.29）
 西川伸一，平田健雄，泉 孝英：ヒト免疫グロブリン産生機構に関する研究 V. PPD 反応性ヘルパー T細胞
 と PWM 反応性ヘルパー T細胞の分離，第9回日本免疫学会総会，（昭54.12.4）
 平田健雄，西川伸一，泉 孝英：ヒト免疫グロブリン産生機構に関する研究IV. protein A による免疫グロブ
 リン産生の誘導とその機構の解析，第29回日本アレルギー学会総会，（昭54.9.28）

〔誌 上 発 表〕

- Nishikawa, S., Hirata, T., Nagai, T., Mayumi, M. and Izumi, T.: PPD-induced immunoglobulin production
 in human peripheral blood lymphocytes. I. Necessary conditions for inducing the response. J. Immunology,
 122(6): 2143~2149, 1979.
 Mayumi, M., Yoshida, T., Shinomiya, K., Nishikawa, S., Hirata, T., Izumi, T. and Mikawa, H.: Effects of
 concanavalin A-induced cells on the proliferative response of T-cells. Concanavalin A-induced suppressor and
 amplifier cells to the proliferative response of human T-cells to trinitrophenyl modified autologous lymphocytes.
 J. Immunology, 123(2): 772-777, 1979.
 Nishikawa, S., Hirata, T. and Izumi, T.: PPD-induced immunoglobulin production in human peripheral blood
 lymphocytes. II. Separation of PPD-reactive helper T-cells from PWM reactive T-cells in polyclonal immuno-
 globulin production of human peripheral blood lymphocytes. J. Immunology, 123 (3):1092-1093, 1979.

2. 結核の免疫に関する研究

〔学会, 研究会発表〕

泉 孝英, 長井苑子, 杉之下俊彦: 肺結核患者血清の免疫抑制作用—特に suppressor cell の誘導を介しての PFC 抑制作用について, 第42回実験結核研究会総会, (昭54.4.4)

松井祐佐公, 木野稔也, 本田和徳, 大島駿作: モルモットにおける MIF と LIF について, 第39回実験結核研究会総会, (昭54.9)

松井祐佐公, 木野稔也, 本田和徳, 大島駿作: モルモットにおける LIF の部分的特性について, 第29回日本アレルギー学会総会, (昭54.9)

松井祐佐公: MIF と LIF, 第31回国立大学附属研究所結核及び胸部疾患談話会, (昭54.11)

大島駿作, 大山口渥, 松井祐佐公, 本田和徳: ツベルクリンアレルギー受身伝達機構に関する研究—脾細胞活性化因子, 第54回日本結核病学会総会, (昭54年4月5日, 東京)

松井祐佐公, 大島駿作: ツベルクリンアレルギーにおける MIF と LIF, 日米医学協力研究会結核部会, (1979年3月27日)

〔誌 上 発 表〕

松井祐佐公: ツベルクリンアレルギーに関する実験的研究—LIF と MIF の免疫学的意義について—, 結核, 54:331, 1979.

松井祐佐公, 大島駿作: ツベルクリンアレルギーにおける MIF と LIF, 昭和53年度, 日米医学協力計画報告書, p. 245 (1979)

3. 肺癌に関する研究

〔学 会 発 表〕

泉 孝英, 杉ノ下俊彦: 肺癌患者血清の免疫抑制作用を用いた肺癌の免疫学的診断法 (immunosuppression test) の診断学的意義について, 第76回日本内科学会講演会, (昭54.4.5)

古田睦広, 浅本 仁, 北市正則: 「肺癌の臨床免疫並びに病理学的研究 (特に所属リンパ節のリンパ球の動態について)」, 厚生省ガン研究助成金桜井班総会, (昭54年2月, 東京)

Sato, A., Yoshimi, T., Izumi, T., Kobara, Y. Oshima, S., Sugimoto, K.: Clinical study and increase of lung cancer in women. VI. Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest. Bombay, (1979, 11, 21)

泉 孝英, 大島駿作, 前川暢夫: Immunosuppression Test による肺癌の血清学的診断 (第2報), 第20回日本肺癌学会総会, (昭54.9.26)

門 政男, 満安清孝, 藤村直樹, 北市正則, 本田和徳, 平田健雄, 西川伸一, 松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作, 川上一郎, 堺幹太, 沢野哲重, 中島道郎, 橋本圭司, 立石昭三, 浜本康平, 杉本幾久雄, 松尾 博: 肺癌患者における Schizophyllan の治療効果, 第20回日本肺癌学会総会 (昭54.9)

本田和徳, 松井祐佐公, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作, 佐藤篤彦: 肺癌発生部位に関する臨床的研究, 第20回日本肺癌学会総会, (昭和54.9).

泉 孝英: ヒト肺癌患者血清中のマウスにおける IgM・PFC 産生抑制因子の性状と suppressor cell の産生を介しての抑制機序について, 第38回日本癌学会総会, (昭54.9.28)

〔誌 上 発 表〕

小原幸信, 佐藤篤彦, 松井祐佐公, 今井弘行, 本田和徳, 大島駿作: 原発性肺癌の入院時臨床像と組織型, 京大胸部研紀要, 12:17, 1979.

4. 気管支喘息およびアレルギーに関する研究

〔学 会 発 表〕

木野稔也, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究. VIII. トビケラによるアレルギーの存在と蛾・蝶との交叉反応性, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

木野稔也: 昆虫の吸入性アレルギー, パネルディスカッション “アレルギーにおける最近の問題点”. 第29回日本アレルギー学会総会, (昭54.9).

藤田洋右, 木野稔也: アレルギー性鼻炎における昆虫アレルギーの意義. パネルディスカッション “アレルギーにおける最近の問題点” 特別発言, 第29回日本アレルギー学会総会, (昭54.9).

Kino, T.: Reaginic sensitivity to inhalants of moth, butterfly, and silkworm in patients with bronchial asthma, Symposium “Untoward reactions to insects.”, X International congress of Allergology, Jerusalem, (昭54.11)

〔誌 上 発 表〕

Kino T. and Oshima, S.: Allergy to insects in Japan. II. The reaginic sensitivity to silkworm moth in patients with bronchial asthma, *J. Allergy and Clin. Immunol.*, **64**: 131, 1979.

木野稔也: 昆虫による吸入性アレルギーの側面, アレルギーの臨床, No. 5, 13, 1979.

木野稔也, 大島駿作: 「昆虫による気管支喘息の研究」かいこの蛾抽出液による蛾・蝶アレルギーの診断と治療, 昭和53年度環境庁公害医療研究費補助金による報告書, (昭54年3月)

5. サルコイドーシスに関する研究

〔学会・研究会発表〕

沼尾嘉時, 泉 孝英他: サルコイドーシス患者の心電図異常所見について(第4報)心電図経過の検討3の2, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4.3)

平賀洋明, 泉 孝英他: サルコイドーシスにおけるいわゆる肺線維症のX線学的検討(第1報), 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4.3)

泉 孝英: サルコイドーシスの免疫学的研究(第7報)PFC-SFの作用機序—特に suppressor cell の誘導—について, 第19回日本胸部疾患学会総会(昭54.4.3)

立花暉夫, 泉 孝英他: サルコイドーシス急性発症症例の検討(第3報), 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4.3)

山本正彦, 泉 孝英他: サルコイドーシスに対するコルチコステロイド治療効果, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4.3)

泉 孝英, 杉之下俊彦, 長井苑子: ヒト血清の免疫抑制作用に関する研究(第6報)サルコイドーシス患者血清によって誘導された suppressor cell による PFC および FP 反応の抑制, 第7回日本臨床免疫学会総会, (昭54.6.28)

西川伸一, 泉 孝英: サルコイドーシス症例のリンパ球の免疫グロブリン産生機能について, 昭和53年度厚生省特定疾患調査研究班サルコイドーシス班会議. (昭54.2.9)

泉 孝英: サルコイドーシス患者血清によるマウスにおける suppressor cell の誘導, 昭和53年度厚生省特定疾患調査研究班サルコイドーシス班会議, (昭54.2.9)

西川伸一: サルコイドーシスにおける Helper function, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班昭和54年度第1回班会議, (昭54.8.31)

泉 孝英: PFC-SF, FP-SF, 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班昭和54年度第1回班会議, (昭54.8.31)

Nishikawa, S., Hirata, T. and Izumi, T.: Helper functions in sarcoidosis. Nara Symposium on Sarcoidosis and other Granulomatous Diseases. Nara (1974. 11. 14)

Izumi, T.: Serum immunosuppressive factors in sarcoidosis. Nara Symposium on Sarcoidosis and other Granulomatous Diseases. Nara (1974. 11. 14)

西川伸一, 平田健雄, 泉 孝英: サルコイドーシス患者末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生能, 第29回日本アレルギー学会総会, (昭54. 9. 28)

泉 孝英, 長井苑子, 杉之下俊彦: ヒト血清中の免疫抑制作用物質に関する研究, (第7報)サルコイドーシス患者血清中の PFC-SF の臨床的意義—特に予後との関連性について, 第29回日本アレルギー学会総会, (昭54. 9. 26)

〔誌 上 発 表〕

篠田正昭, 能見伸八郎, 岩井和郎, 泉 孝英: 乳腺サルコイドと考えられた1例, 日本外科宝函48 (3): 404-410, (昭54)

泉 孝英: サルコイドーシスの発症進展機構における propionibacterium の役割に関する基礎的研究. 1) Propionibacterium の Adjuvant 作用に関する研究. 文部省特定研究「難病」班, 難病の発症機構に関する基礎的研究, 昭和53年度研究業績, p. 319-322, (昭54年3月)

泉 孝英, 長井苑子: サルコイドーシス患者血清中の免疫抑制作用物質の性状と作用機序, 昭和52年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績 p. 129-138, (昭53. 3)

北郷 修, 泉 孝英他: スイス抗原によるクベイム・テスト成績, 昭和52年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績, p. 164-165, (昭53. 3)

山木戸道郎, 泉 孝英他: 重症肺サルコイドーシスの臨床像, 昭和52年度厚生省特定疾患調査研究班研究業績, p. 215-226, (昭53. 3)

泉 孝英他: 急性発症 (特に Erythema nodosum) 症例の予後, 昭52年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績, p. 245-249, (昭53. 3)

6. 肺線維症, 間質性肺炎に関する研究

〔研究会発表〕

泉 孝英, 平田健雄: Fibrosing alveolitis 症例リンパ球の免疫グロブリン産生機構に関する研究, 厚生省特定疾患肺線維症調査研究班班会議, (昭54. 2. 9)

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英, 平田健雄: Fibrosing alveolitis 症例リンパ球の免疫グロブリン産生機構に関する研究, 厚生省特定疾患肺線維症調査研究班昭和53年度研究報告書 p. 123-125, (昭54. 3)

7. 産業性肺疾患に関する研究

〔学会発表〕

北市正則, 平田健雄, 西川伸一, 泉 孝英: 慢性ベリリウム肺に関する研究 (第4報) 慢性ベリリウム肺10症例の臨床所見と経過, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54. 4. 3. 東京)

Izumi, T., Oshima, S. et al.: An experience of the treatment of chronic beryllium disease. 9th Asian Conference on Occupational Health, Seoul (1979. 10. 25)

Inui, S., Izumi, T. et al.: Silicosis from the mining and processing of whetstone. 9th Asian Conference on Occupational Health, Seoul (1979. 10. 26)

8. その他の肺および呼吸器疾患についての研究

〔学会・研究会発表〕

藤村直樹, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作: 要望課題. ツベルクリン反応—最近の課題各種肺疾患におけるツベルクリン反応—特にツベルクリン反応陰性率に関する検討, 第54回日本結核病学会総会, (昭54. 4. 5)

平田健雄, 西川伸一, 泉 孝英: びまん性汎細気管支症例における末梢血リンパ球の免疫グロブリン産生異常とその機序の解析, 第19回日本胸部疾患学会総会 (昭54.4.3)

泉 孝英: 肺における免疫反応, 第4回過敏性肺炎検討委員会 (昭54.10.29)

Izumi, T., Fujimura, N.: The frequency of tuberculin negative reactors in various lung diseases—as one test for differential diagnosis. VI. Asia Pacific Congress on Disease of the Chest. Bombay (1979. 11. 19)

大島駿作, 満安清孝: 閉塞性肺疾患と喫煙との関係に及ぼす内的素因の影響に関する研究, α -アンチトリプシン欠損症について, 第22回喫煙と健康に関する委託研究会発表会, (1979年7月6日)

中井栄一, 浅本 仁, 古田睦広, 北市正則, 徐 航霄: 「フリーズフラクチャー法による正常マウス肺組織の超微細構造の観察」, 第68回日本病理学会総会, (昭54.4 東京)

松村理司, 青木 稔, 松延政一, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝, 北市正則: 「いわゆる肺胞上皮癌のX線像について」, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2 大津)

本田和徳, 北市正則, 佐藤篤彦, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作: 「肺野に孤立性小型陰影を呈した症例についての検討—特に肺野小型肺癌との鑑別について」第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4 東京)

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英: 外因性アレルギー性肺炎について, 昭和52年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績 p. 251-252, (昭53.3)

平田健雄, 西川伸一, 泉 孝英: びまん性汎細気管支炎の免疫学的考察, 日本胸部臨床, 38:90, (昭54)

門 政男, 北市正則, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作, 浅本 仁, 尾崎元昭: 肺癌, 肺結核, 癩症例における PHA 皮内反応の検討, 京大胸部研紀要, 第12巻, p. 28-35 (昭54.3)

中井栄一, 浅本 仁, 古田睦広, 北市正則, 徐 航霄: フリーズフラクチャー法による正常マウス肺組織の超微細構造の観察, 日本病理学会会誌, 第68巻, p. 203, (昭54.)

9. 症 例 報 告

〔学会・研究会報告〕

平田健雄, 北市正則, 泉 孝英: DIP とと思われる1症例, 第6回びまん性肺疾患研究会, (昭54.7.28)

北市正則, 満安清孝, 泉 孝英: 閉塞性障害を呈したびまん性肺疾患の1例, 第6回びまん性肺疾患研究会, (昭54.7.28)

平田健雄, 北市正則, 泉 孝英: 緩徐な経過をとったびまん性肺疾患の1例, 第7回びまん性肺疾患研究会, (昭54.12.1 大阪)

満安清孝, 北市正則, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: 金製剤使用中に発症した間質性肺炎の1症例, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4.4 東京)

北市正則, 鈴木康弘, 和田洋己, 中井栄一, 古田睦広: Pulmonary Blastoma を思わせた1手術例, 第68回日本病理学会総会, (昭54.4 東京)

北市正則, 鈴木康弘, 和田洋己, 中井栄一, 古田睦広: 肺腫瘍の1手術例, 近畿病理某談会 (わからん会), (昭54.1 大阪)

藤田洋一, 藤井宏一, 大嶋雅美, 林 英夫, 北市正則: 間質性肺炎を考えた2症例, 第5回びまん性肺疾患研究会, (昭54.2 大阪)

坪井裕志, 市谷迪雄, 弘野慶次郎, 田中瑩子, 北市正則: 胸部レ線上, びまん性陰影と胸水貯留がみられた1例, 第7回びまん性肺疾患研究会, (昭54.12 大阪)

北市正則, 平田健雄, 泉 孝英: 扁腺混合型肺癌の合併をみた UIP の一剖検例, 第21回肺線維症研究会, (昭54.11 東京)

松井祐佐公, 小原幸信, 大島駿作: 胸水貯留で始まった悪性中皮腫の一例, 日本内科学会近畿地方会, (昭54.7)

本田和徳, 藤村直樹, 満安清孝, 北市正則, 門 政男, 大島駿作: 原発性肺癌を疑った上顎癌気管支粘膜下転移 (Endobronchial metastasis) の1例, 第11回近畿気管支鏡懇話会, (昭54.9)

古川福実, 本田和徳: 癌性胸膜炎を伴った臍部基底細胞癌, 第238回日本皮膚科学会大阪地方会, (昭54.10)

橋本圭司, 松井祐佐公, 北市正則, 大島駿作, 田中 晋: 長期経過をたどった Mucoïd impaction of bronchus の1手術例, 第98回日本内科学会近畿地方会, (昭54.6 和歌山)

坪井裕志, 弘野慶次郎, 市谷迪雄, 田中瑩子, 北市正則: びまん性肺疾患の1症例, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭54.10 大阪).

大成功一, 太田邦夫, 浅井信明, 加藤幹生, 佐川弥之助, 北市正則, 竹田俊男: 肺内皮様嚢腫からの悪性化が疑われた肺癌の1例, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭54.10 大阪)

〔誌 上 発 表〕

北市正則, 鈴木康弘, 和田洋己, 中井栄一, 古田睦広: Pulmonary Blastoma を思わせた1手術例, 日本病理学会会誌, 第68巻, 212, (昭54)

門 政男, 西川伸一, 大島駿作, 杉本幾久雄: 結核性胸膜炎の治療中に発生したカンジダ肺炎の1症例, 結核, 54, 407, 1979.

10. そ の 他

〔学会・研究会発表〕

藤村直樹, 泉 孝英, 大島駿作: RFP の免疫抑制作用について, 第42回実験結核研究会総会, (昭54.4.4)

泉 孝英: シンポジウム, RFP の作用動態. I. 免疫抑制作用の面から, 第54回日本結核病学会総会, (昭54.4.5)

岩城和男, 泉 孝英 他: 脳疾患患者血清の免疫抑制作用に関する研究(第1報)各種脳疾患患者血清のSRBC に対する IgM・PFC 産生抑制作用, 第7回日本臨床免疫学会, ワークショップ13 免疫からみた神経疾患, (昭54.6.28)

〔総 説〕

泉 孝英, 西川伸一, 平田健雄: 肺疾患と HLA, 厚生省特定疾患, 肺線維症調査研究班昭和52年度研究報告書, 肺線維症の成因, 治療及び予防に関する研究, p. 86-88 (昭53.3)

泉 孝英, 西川伸一, 平田健雄: 微生物による免疫反応の regulation—特に Microorganism, microbial product の polyclonal B-cell activator 作用, 最新医学34. (12):2560-2567, 1979.

泉 孝英: サルコイドーシスと細胞性免疫, 臨床科学, 15 (8): p. 897-906, 1979.

大島駿作, 木野稔也, 松井祐佐公, 川上一郎, 中島道郎: 結合織病に伴う肺病変, 周辺疾患との関連—過敏性肺臓炎, 現代医療, 11, 1045, (1979)

大島駿作: 呼吸器系と老化 (論説), 日本胸部疾患学会誌, 17, 519, (1979)

大島駿作, 木野稔也, 松井祐佐公, 平田健雄, 北市正則: 診療の進歩, 肺, 現代医療, 第11巻, p. 289-295, 1979.

〔分 担 執 筆〕

泉 孝英: 岡安大仁, 岩崎 栄編 呼吸器病ケーススタディ, 50例の PO 研修, 医学書院, 東京, 1979. 症例5…関節リウマチにて治療中, 高熱と咳を訴えた女性 p. 21.

症例20…10年来肺結核の治療を受けていたのにもかかわらず, 咳, 呼吸困難がしだいに増加してきた男性. p. 100.

症例21…粟粒結核と診断され, 治療開始1カ月後に自覚症状の増悪と自然気胸を来した女性, p. 105.

症例34…集団検診にてびまん性粟粒様陰影を発見された女性, p. 173.

泉 孝英: 大島駿作, 佐川弥之助, 寺松孝, 前川暢夫編 呼吸器病学 金芳堂, 京都, 1979 II編 症候と診断 7章 血液検査, 化学検査及び免疫学的検査 3. 免疫学的検査, p. 132-135, IV編各論, 6章 免疫学的肺

疾患 p. 322-348 7章 産業性肺疾患 p. 349-364 11章 薬剤による肺疾患 p. 429-434

泉 孝英：村尾誠，滝沢敬夫編 図説臨床内科講座第8巻呼吸器[2]，メジカルビュー社，東京，1979. サルコイドーシス，p. 210-219

泉 孝英，平田健雄：鎮目和夫，石川 誠，鈴木秀郎，和田 功，土屋雅春，国府達郎編 新内科学大系28B，呼吸器疾患Ⅲ b，中山書店，東京，1979. 膠原病に伴う肺線維症，p. 125-150.

泉 孝英：Wegener 肉芽腫症，石山俊次，日野原重明，阿部正和編，今日の治療指針，医学書院，東京. p. 444-445.

泉 孝英：サルコイドーシス研究協議会，三上理一郎，細田 裕，岩井和郎，泉孝英編，サルコイドーシス，東大出版会，東京，1979. 第3部 サルコイドーシスとは，第3章 免疫異常 1. 概論 p. 289-292, 2. 細胞性免疫 p. 293-303, 4. クベイム反応 c. *in vitro* のクベイム反応 p. 313-314, d. クベイム反応の機序 p. 314-315, e. クローン病とクベイム反応 p. 315-316, 第4部 診断の実録，第2章 臨床検査，4. 尿検査 p. 359, 5. 血液検査 p. 359-361, 8. 皮膚反応 a. ツベルクリン反応 p. 377-379. 第6部 サルコイドーシスの本態，第4章 病因論 3. 免疫学的立場から—サルコイドーシスの発生機序に関する免疫学的仮説，p. 566-572, 第7部 興味ある症例，第1章 非定型的な胸部X線像，[1] 縦隔リンパ節のみの腫脹 p. 584-585, 第2章 サルコイドーシスの経過の諸相，[2] 肺門リンパ節腫脹と肺野病変の自然消失例 p. 606-607

木野稔也：9. リンパ球機能検査，第2章 臨床検査，サルコイドーシス（日本サルコイドーシス研究協議会編），東京大学出版会，p. 381, 1979

木野稔也：2. 妊娠と経過，第8章 経過と予後，サルコイドーシス（日本サルコイドーシス研究協議会編），東京大学出版会，p. 458, 1979.

木野稔也：1. 気管支喘息，第6章 免疫学的肺疾患，呼吸器病学（京都大学結核胸部疾患研究所編），金芳堂，p. 314, 1979.

木野稔也：第9章 その他の気管支・肺疾患，呼吸器病学（京都大学結核胸部疾患研究所編），金芳堂，p. 403, 1979.

〔講演会〕

泉 孝英：癌患者血清の免疫抑制作用を用いた肺癌の血清学的診断の試み，昭和53年度結核胸部疾患研究所講演会，（昭54.1.27）

泉 孝英：肺疾患の鑑別と臨床検査，静岡県西部呼吸器談話会，（昭54.9.13 浜松）

大島駿作：肺癌の臨床，香川県呼吸器疾患談話会，（1979年7月14日）

門 政男：Transbronchial Lung Biopsy について，香川県内科医会呼吸器談話会（昭54.6）

Oshima, S., Matsui, Y.: Studies on LIF and MIF in guinea pigs, Bowman Gray School of Medicine, October, 1979, U.S.A.,

大島駿作：気管支喘息，中華医学会（1979年5月7日，北京）

胸部外科学部門

〔誌上発表〕

1. 腫瘍

福田治男，伊藤元彦：アミラーゼ産生肺癌の研究，京大胸部研紀要12(1.2)，1979.

松村理司，伊藤元彦：肺癌のレントゲン像(10) 撒布像，総合臨床28(1)，1979.

伊藤元彦，松村理司：肺癌のレントゲン像(11) 肺門部早期癌，総合臨床28(2)，1979.

松村理司，伊藤元彦：肺癌のレントゲン像(12) いわゆる気管支腺腫のX線像，総合臨床28(3)，1979.

寺松 孝，伊藤元彦，他5：肺癌に対する limited operation，日本胸部臨床38(3)，1979.

宮本茂充，滝俊彦，桑原正喜，二ツ矢義一，松原義人，二宮和子，甲斐隆義，池田貞雄，若林陽夫：縦隔鏡検

査で診断がついた上部食道平滑筋腫の一例, 胸部外科32(3), 1979.

松原義人, 船津武志, 畠中陸郎, 桑原正喜, 滝俊彦, 宮本好博, 宮本茂充, 二宮和子, 池田貞雄, 甲斐隆義: 縦隔鏡検査からの検討ならびにリンパ節における腫瘍特異抗体の検索, 胸部外科32(7), 1979.

玉田二郎: カンファレンス 末期癌患者に関する諸問題3, 肺癌とDIC, 関西電力病院医学雑誌11(1), 1979.

二宮和子, 松原義人, 桑原正喜, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌の多剤併用化学療法 (FUMCET), 癌と化学療法6(2), 1979.

宮本茂充, 池田貞雄, 二宮和子, 宮本好博, 桑原正博, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎: 末期肺癌患者における癌性疼痛の対策—Brompton Mixture の効果—, 日本癌治療学会雑誌14(6), 1979.

北野司久, 杉山正敏, 高嶋義光, 光岡明夫, 青木稔, 長瀬千秋: Nu-マウスを用いる制癌剤感受性検査法 (第2報) Cyclophosphamide を中心にして, 最近医学34: 1356~1361, 1979.

加藤 譲, 早稲田則雄, 井村裕夫, 倉田昌彦: ヒト乳癌の細胞質および核内エストロゲン受容体ならびに形質膜プロラクチン受容体について, ホルモンと臨床27: 851-856, 1976.

中路忠司, 伊東政敏, 他: 癌性胸膜炎に対する治療経験, 日本胸部臨床38: 75, 1979.

服部正次, 伊藤元彦ほか: 腺癌の組織亜型分類および分化度別にみた術後成績, 肺癌9(4), 361, 1979.

2. 胸 腺, 免 疫

Akio Mitsuoka, Shigeru Morikawa, Mitsuo Baba, and Takayuki Harada: Cyclophosphamide eliminates suppressor T-cells in age-associated central regulation of delayed hypersensitivity in mice, J. Exp. Med. 149: 1018-1028, 1979.

3. 結 核

生嶋宏彦, 安倍隆二: 結核性膿胸に対する開放療法の適応, 結核54(2): 85~88, 1979.

4. 人 工 材 料

寺松 孝: 医用高分子のバイオプラスチック, 第20回日本医学会総会誌: 2159~2162, 1979.

渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝, 他3名: ウロキナーゼ固定化—コラーゲン被覆合成高分子について, 人工臓器8: 218, 1979.

寺松 孝: 日本人工臓器学会への一会員からの提言, 人工臓器8(5): 489, 1979.

加藤弘文, 松延政一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他2名: 新医用材料 polyvinyl-alcohol-silica 複合体 (第2報) —組織適合性について—, 人工臓器8(2): 255~258, 1979.

渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝, 他2名: 機能性医用材料としての酵素の固定化, 第1回バイオマテリアル学会大会論文集: 17, 1979.

寺松 孝, 清水慶彦, 加藤弘文, 玉田二郎, 岡村誠三: 生体高分子と合成高分子との複合による医用材料の開発及び改良に関する研究, 文部省科学研究費補助金による研究成果報告書: 1979.

寺松 孝: 医用高分子材料と生体軟組織との適合性の研究—各種素材の生体軟組織への親和適合性とそれらの臨床応用に関する研究, 文部省特定研究医用高分子材料に関する基礎的研究 成果報告Ⅲ: 53~57, 1979.

寺松 孝: 医用高分子材料と生体軟組織との適合性の研究. 文部省特定研究 医用高分子材料に関する基礎的研究 研究概要報告書(6): 19~20, 1979.

寺松 孝: これからの医用高分子, 文部省特定研究医用高分子材料に関する基礎的研究研究 概要報告書(5): 39~41, 1979.

Y. Shimizu, S. Matsunobe, H. Yamamoto, T. Teramatsu, S. Okamura and T. Hino: Study on composites of collagen and synthetic polymer, Artificial Organs 2 (Suppl): 81-83, 1978.

Y. Shimizu, Y. Miyamoto, T. Teramatsu, S. Okamura, and T. Hino: Study on composites of collagen and synthetic polymer. Second report—Mode of reaction of a laminar composite with living tissue, and results of long-term implantation, Biomat., Med., Dev., Art. Org., 6(4): 375-391, 1978.

Y. Shimizu, Y. Miyamoto, H. Kato, T. Teramatsu: Physiological function of trachea after reconstructive tracheal surgery using artificial materials: Bronchoscopy-WCB: 211-213, 1979.

5. 心・血管

加藤 洋, 庄村東洋, 吉栖正之, 他6名: 仮性心室瘤の診断における超音波検査法と心プールスキャン, 呼吸と循環27(2): 77, 1979.

山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之, 他5名: Porcine xenograft による弁置換の成績特に術後血行動態的検討, 日本心臓血管外科学会雑誌8(3): 233, 1978.

庄村東洋, 吉栖正之, 他6名: 心筋梗塞およびその合併症に対する手術—心室瘤切除術の効果と予後について一, 日本心臓血管外科学会雑誌8(3): 271, 1978.

山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之, 他13名: 三心房心の1手術治験例, 胸部外科32(2): 132, 1979.

重松陽介, 庄村東洋, 吉栖正之, 他8名: 総肺静脈還流異常 cardiac type の術前術後の血行動態の検討, 心臓9(11): 989, 1977.

奥町富久丸, 庄村東洋, 吉栖正之, 他11名: 超音波断層図による肺動脈弁疣贅の診断, Journal of Cardiography 9(2): 279, 1979.

Kunizo Baba, Takashi Fukaya, Yasuhiko Tomita, Masayuki Yoshizumi, Chuzo Mori: Computerized ECG Analysis in Cardiovascular Surgery of Elementary School Pupils, Japanese Circulation Journal 42(1): 53, 1978.

野々山明, 伊東政敏, 他: 心・大血管奇型を伴う異型左鎖骨下動脈の乳児期2手術例, 日本胸部外科学会雑誌27: 1319, 1979.

6. 一般胸部疾患, 他

寺松 孝: 分担執筆: 第6章呼吸器の外科Ⅲ手術々式, Ⅶ気管, 気管支, Ⅷ気管支, 肺, 13-1, 肺結核, 外科学各論, 南江堂, 1979.

山本博昭: 分担執筆: 第6章呼吸器の外科Ⅴ胸郭, 胸壁および横隔膜, Ⅵ胸膜の疾患, 外科学各論, 南江堂, 1979.

伊藤元彦: 分担執筆: 第6章呼吸器の外科Ⅷ気管支, 肺, A. 構造の異常とそれに基づく疾患, B-2, 炎症, C-4. 腫瘍, 外科学各論, 1979.

寺松 孝: 分担執筆: 呼吸器病学, 金芳堂, 1979.

伊藤元彦: 分担執筆: 同上

山本博昭: 分担執筆: 同上

加藤弘文, 寺松 孝: 分担執筆: 臨床編—肺・縦隔手術における術後代謝一, 吉竹 毅編集術後代謝の基礎と臨床, 真興交易医書出版部, 581, 1979.

伊藤元彦, 青木 稔: 気管, 気管支腺の機能と構造, 日本胸部臨床38(8): 581, 1979.

梅田文一, 庄村東洋, 吉栖正之, 他8名: 外傷性縦隔血腫の1例, 日本胸部疾患学会雑誌17(5): 321~325, 1979.

寺松 孝: 胸腔ドレナージ (肺縦隔手術後のドレナージ), 手術33(11): 1265~1273, 1979.

山本博昭, 松谷之義, 青木 稔, 松本守海: 自然気胸の治療法としての同時両側開胸術, 胸部外科32: 193, 1979.

人見滋樹, 前里和夫, カレッド・レシャード, 池田貞雄, 船津武志, 甲斐隆義: 特集胸部疾患の非観血的診断 I 胸腔造影法—術前検査として—, 胸部外科32(10): 753~759, 1979.

カレッド・レシャード, 人見滋樹, 前里和夫: 特集胸部疾患の非観血的診断 I 自然気胸や胸膜炎に対する胸膜癒着術の効果判定のための胸腔造影の意義, 胸部外科32(10): 760~764, 1979.

田中 寛, 倉田昌彦, 宮田仁: 縦隔疾患のCT スキャン, 臨床放射線24(1,2): 1~5, 1979.

畠中陸郎, 小鯖 覚, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 松原義人, 船津武志, 二宮和子, 池田貞雄: 呼吸器疾患におけるセロスリン®の使用経験—第1報基礎的検討, 第2報臨床的検討—, 診療と新薬16(10), 1979.

玉田二郎, 寺松孝: 胸水—その診断と治療, 薬局39(8), 1979.

山本博昭, 松谷之義, 青木 稔, 松本守海: 横隔膜の挙上と胸郭の縮小術—膿胸腔を縮小するための試み—, 共済医報28(2): 30, 1979.

山本博昭: あなたの質問にお答えします, 川畑愛義監修(9), 日本学校保健研修社: 161~166, 167~173, 1979.

北野司久: チェスト・カンファレンス近況, 奈良県医師新報12: 8~10, 1979.

Motohiko Ito, Haruo Fukuda, Yukio Suzuki, Takayuki Harada, and Shigeru Morikawa: Immunohistochemical localization of lactate dehydrogenase subunits in porcine liver, Effect of Fixatives on Detection of Specific Fluorescence, Shimane J. Med. Sci., 2: 25, 1978.

Yoshio Okada, Motohiko Ito, and Chuzo Nagaishi: Anatomical study of pulmonary lymphatics, Lymphology 12(3): 118, 1979.

〔学 会 発 表〕

1. 腫 瘍

玉田二郎, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: Mucoepidermoid tumor の2例, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

立石昭三: 肺癌とブラ, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 柿本祥太郎, 本田裕宏: 肺腺癌の臨床像について, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

長瀬千秋, 高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福, 北野司久: 最近経験した肺過誤腫の3治験例, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

杉山正敏, 後藤光良, 高嶋義光, 光岡明夫, 長瀬千秋, 北野司久: ノードマウス移植人肺癌を用いた制癌剤感受性テスト (in vivo)の基礎的検討, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

黒田 昭, 庄村東洋, 吉栖正之, 波多信: ① 肺乳頭腫の一症例, ② 同一病巣に肺癌と肺結核の混在した一症例, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

桑原正喜, 宮本茂充, 宮本好博, 滝俊彦, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 多量の胸水貯留をきたし Palliative perietal pleurectomy が奏功したリンパ肉腫の一例, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

二宮和子, 宮本好博, 宮本茂充, 滝 俊彦, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 桑原正喜, 船津武志, 池田貞雄: 高 Ca 血症を伴った肺癌3例, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

宮本茂充, 宮本好博, 桑原正喜, 滝 俊彦, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 田沢勲: 肺癌患者と類白血病反応, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

宮本好博, 宮本茂充, 桑原正喜, ニツ矢義一, 松原義人, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 縦隔リンパ節の Sarcoid reaction を伴った肺癌の2症例, 第30回肺癌学会関西支部会, (昭54.2)

玉田二郎: 肺癌早期発見における高危険群とそのスクリーニング法の向上に関する研究, 53年度ハイリスクグループ集検報告, 厚生省がん研究成毛班第1回班会議, (昭54.2)

岡田英彦, 倉田昌彦, 他2名: 甲状腺扁平上皮癌の1剖検例, 20回京都内分泌同好会, (昭54.3)

松原義人, 池田貞雄, 桑原正喜, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺癌の領域リンパ節における腫瘍特異抗体の検索, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

宮本茂充, 池田貞雄, 宮本好博, 桑原正喜, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志: 肺癌患者における異所性 ACTH と α_1 Antitrypsin, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

玉田二郎, 松村理司, 加藤弘文, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 気管支腺腫瘍の臨床, 病理学的検討, 第22回日本胸部外科学会関西支部会地方会, (昭54.4)

前里和夫, 人見滋樹, カレド・レシャード, 他2名: 多発した肺硬化性血管腫の1治験例, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

伊東政敏, 他3名: 肺癌手術例の検討, 特に高齢者について, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

- 宮本好博, 他9名: 胸部異常陰影で発見された悪性リンパ腫4例, 第22回胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)
- 北野司久, 光岡明夫, 長瀬千秋: 縦隔腫瘍43例の手術経験, 第22回胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)
- 北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 長瀬千秋: 制癌剤感受性試験法の開発, 第22回胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)
- 岡田英彦, 倉田昌彦 他4名: 縦隔形質細胞腫の1例, 第22回胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)
- 岡田英彦, 倉田昌彦, 柿本祥太郎, 西谷裕, 松谷之義: 重症筋無力症の胸腺摘出手術における頸部, 縦隔脂肪組織郭清の意義—特に抗 Ach 受容体抗体との関連について, 第22回胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)
- 柿本祥太郎, 岡田英彦, 倉田昌彦: 肺平滑筋肉腫の1例, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)
- 宮本茂充, 畠中陸郎, 宮本好博, 桑原正喜, ニツ矢義一, 滝 俊彦, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 多発性にみられた肺の軟骨性過誤腫, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)
- 光岡明夫, 長瀬千秋, 北野司久: 胸腔内ニューロblastomaの1治験例, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)
- 岡本交二, 庄村東洋, 吉柄正之: いわゆる肺胞上皮癌の1早期手術例, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)
- 伊藤元彦, 和田洋已, 玉田二郎, 松村理司, 青木 稔, 高嶋義光, 寺松 孝: 肺癌治療における組織学的細分類の意義, 第79回日本外科学会総会, (昭54.5)
- 岡田英彦, 倉田昌彦, 中島広明, 柿本祥太郎, 早稲田則雄, 加藤 譲: 乳癌組織のホルモンレセプターと関連因子ならびにホルモン治療の効果について: 第79回日本外科学会総会, (昭54.5)
- 伊藤元彦, 光岡明夫, 和田洋已, 寺松 孝: ヒト胸腺腫のヌードマウス移植と, ヌードマウスにおける抗体産生について, 第7回日本臨床免疫学会総会, (昭54.5)
- 山中 晃, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: 結腸癌, 乳癌の既往を有する肺癌の一症例, 第34回中部肺癌学会, (昭54.6)
- 北野司久, 光岡明夫: 制癌剤感受性テストの検討—microcolony inhibition test を中心にして, 厚生省下里研究班, (昭54.6)
- 伊藤元彦: 手術に併用する免疫化学療法, 厚生省がん研究服部班, (昭54.6)
- 玉田二郎, 伊藤元彦: 肺門部早期癌の非観血的治療の可能性を示唆する一症例について, 厚生省がん研究服部班, (昭54.6)
- 佐藤新太郎, 安淵義男: 早期肺腺癌の1例, 肺癌学会近畿地方会, (昭54.6)
- 伊藤元彦, 高嶋義光, 玉田二郎, 青木 稔, 寺松 孝: 切除後5年以上生存した肺巨細胞癌の2例, 第31回日本肺癌学会関西地方会, (昭54.7)
- 玉田二郎, 加藤弘文, 松村理司, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 放射線治療に合併した気胸, 第31回肺癌学会関西支部会, (昭54.7)
- 宮本茂充, 小鯖 覚, 宮本好博, 畠中陸郎, ニツ矢義一, 滝 俊彦, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 縦隔に発生した Germ cell tumor の1例, 第31回肺癌学会関西支部会, (昭54.7)
- 畠中陸郎, 小鯖 覚, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 滝 俊彦, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管悪性腫瘍に対する外科療法, 第31回肺癌学会関西支部会, (昭54.7)
- 北野司久, 宮本好博, 光岡明夫, 長瀬千秋: Nu-マウスに移植されたヒト肺腫瘍の発育動態, 肺癌学会関西支部会, (昭54.7)
- 前里和夫, 人見滋樹, カレッド・レシャード, 橋本隆治: 肺癌による癌性疼痛に対する ^{60}Co 治療の効果, 第31回肺癌学会関西支部会, (昭54.7)
- 人見滋樹, 前里和夫, カレッド・レシャード: 肺癌の放射線療法, 化学療法中にみられた白血球減少性感染症に対する病室清浄化の効果, 第31回肺癌学会関西支部会, (昭54.7)
- 岡田英彦, 倉田昌彦, 柿本祥太郎, 室本 仁, 藤田正憲, 本田裕宏: 肺原発細網肉腫の1例, 第31回肺癌学会関西支部会, (昭54.7)
- Sadao Ikeda, Yoshito Matsubara, Masayoshi Kuwabara: Tumor-specific Antigen of Lung Cancer Tissues, WHO-COLLABORATIVE Study on Lung Tumor Associated Antigens, (昭54.9)

- 北野司久, 光岡明夫, 長瀬千秋: 制癌剤感受性 (in vivo) テストの検討, 第38回日本癌学会総会, (昭54.9)
- 早稲田則雄, 加藤譲, 井村裕夫, 倉田昌彦: ハイドロオキシアパタイトを用いたヒト乳がんのエストロゲン変容体の新しい交換測定, (昭54.9)
- 松原義人, 桑原正喜, 池田貞雄, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺癌患者の領域リンパ節における腫瘍特異抗体の検索, 第38回日本癌学会総会, (昭54.9)
- 桑原正喜, 池田貞雄, 松原義人, 伊藤元彦, 寺松 孝: 腫瘍特異抗原による肺癌患者の皮内反応, 第38回日本癌学会総会, (昭54.9)
- 伊東政敏, 他8名: 高齢者(70才以上)肺癌切除例の検討, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 光岡明夫, 宮本好博, 北野司久: 肺癌症例に対する Cyclophosphamide 療法—血中活性化物質測定の意義について, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 北野司久, 宮本好博, 光岡明夫, 宮林美福, 高嶋義光, 弘野広次郎, 市谷迪雄: 肺癌における Tumor Associated Antigen の臨床的意義, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: Ethyl-Stains-All による肺腺癌の検討, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 前里和夫, 人見滋樹, カレッド・レシャード, 橋本隆治: 肺癌と消化器癌の癌性疼痛に対する ^{60}Co 治療の効果, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 高嶋義光, 青木 稔, 松延政一, 玉田二郎, 渡部 智, 加藤弘文, 和田洋已, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 再発肺癌に対する再切除術, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 青木 稔, 高嶋義光, 松村理司, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺巨細胞癌切除例の臨床的ならびに病理学的検討, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 畠中陸郎, 小鯖覚, 宮本好博, 宮本茂充, 滝 俊彦, ニツ矢義一, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管癌の治療の問題点, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 宮本茂充, 池田貞雄, 小鯖 覚, 宮本好博, 滝俊彦, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎: 肺癌患者における異所性 ACTH と α_1 Antitrypsin, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 倉田昌彦, 岡田英彦, 柿本祥太郎, 永見義隆, 室本 仁, 藤田正憲, 田辺正也, 田中 寛: 悪性縦隔腫瘍の CT スキャン—特に肺癌の縦隔, 肺門転移について—, 第20回日本肺癌学会, (昭54.9)
- 二宮和子, 池田貞雄, 宮本茂充, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 滝 俊彦, ニツ矢義一, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 末期肺癌の癌性疼痛への対策—Brompton mixture の効果—, 第17回日本癌治療学会総会, (昭54.9)
- 北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫: 担癌生体の免疫反応(5), Melanoma に対する免疫療法について, 第17回日本癌治療学会総会, (昭54.9)
- 杉山政敏, 後藤光良, 光岡明夫, 長瀬千秋, 北野司久: ノードマウス移植人肺癌を用いた実験的化学療法(第2報), 第17回日本癌治療学会総会, (昭54.9)
- 北野司久, 光岡明夫: Nu-マウスを用いる制癌剤感受性検査法(第3報), 制癌剤適応研究会, (昭54.9)
- 佐藤新太郎, 安淵義男, 和邇秀俊: 肺癌診断法としての細胞診と CEA, 国立病院療養所総合医学会シンポジウム肺癌診断法, (昭54.10)
- 伊藤元彦, 高嶋義光, 光岡明夫, 青木 稔, 和田洋已, 玉田二郎, 寺松 孝: HCG., AFP. 産生縦隔 germ cell tumor のノードマウス移植とノードマウスにおける HCG., AFP. の産生, 第38回日本癌学会総会, (昭54.10)
- 玉田二郎: 早期肺癌症例報告, Ethyl-Stains-All 法の喀痰細胞診への応用について, 厚生省がん研究成毛班第2回班会議, (昭54.11)
- 野々山明, 伊東政敏, 他7名: 原発性肺癌の手術成績の検討, ことに術後早期死亡例の分析と術前肺機能との関係について, 号第32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)
- 宮本好博, 他10名: 肺癌における縦隔鏡検査の検討, 第32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)
- 伊藤元彦, 青木 稔, 渡部 智, 玉田二郎, 和田洋已, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝: 進行肺癌に対する外科的治療の成績, 第32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)
- 伊藤元彦, 高嶋義光, 青木 稔, 玉田二郎, 和田洋已, 寺松 孝: ノードマウス移植による胸腺腫の研究, 第

32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)

和田洋已, 松延政一, 伊藤元彦: 浸潤性前縦隔腫瘍に対する治療成績の分析, 浸潤性縦隔腫瘍の外科的治療と遠隔成績, 第32回日本胸部外科学会総会, シンポジウムⅢ, (昭54.11)

Hiroimi Wada, Seiichi Matsunobe, Seiichi Tonomura, Motohiko Ito, Takashi Teramatsu: Assessment of immunotherapy of lung cancer with the streptococcal preparation, OK-432 from the experimental and clinical point of view. VI ASIA PACIFIC CONGRESS ON DISEASES ON THE CHEST, (昭54.11, Bombay, India)

Takashi Teramatsu, Motohiko Ito, Hiroimi Wada: Limited Surgery and Aggressive Surgery of Lung Cancer, VI A.P.C.D.C., (昭54.11)

Morihisa Kitano, Akio Mitsuoka, Tiaki Nagase,: Clinical Significance of Carcino Embryonic Antigen in Lung Cancer, VI A.P.C.D.C., (昭54.11)

Masahiko Kurata, Hidehiko Okada, Zin Muromoto, Masaya Tanabe, Hiroshi Tanaka: Evaluation of Computed Tomography in Mediastinal Lymph Node Enlargement Caused by Malignant Metastasis, VI A.P.C.D.C., (昭54.11)

金城 明, 和田洋已, 清水慶彦, 牛田伸一, 倉沢卓也, 伊藤元彦, 寺松 孝: 縦隔海綿状血管腫の一例, 第126回近畿外科学会, (昭54.11)

小鯖 覚, 宮本茂充, 滝 俊彦, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 胸膜中皮腫の1手術例, 第126回近畿外科学会, (昭54.11)

福山 守, 庄村東洋, 吉栖正之: 縦隔脂肪腫の1治療例, 第126回近畿外科学会, (昭54.11)

山中 晃, 住友伸一, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: 神経性縦隔腫瘍12例の検討, 第36回日本胸部疾患学会東海地方学会, (昭54.11)

佐藤新太郎, 安淵義男: 肺癌の診断と治療, 肺切除3例の検討, 滋賀県外科医会, (昭54.11)

伊藤元彦: 肺癌切除例における FT-207, OK-432 による長期維持療法の併用効果, 厚生省がん研究服部班, (昭54.12)

伊藤元彦: 前縦隔悪性腫瘍の分類と治療, 京阪神呼吸器談話会, (昭54.12)

北野司久, 光岡明夫: ノードマウスに establish された 2 human tumors の制癌剤感受性テストの成績及びその臨床的応用, 厚生省がん研究下里班, (昭54.12)

2. 胸 腺, 免 疫

和田洋已, 松延政一, 外村望一, 伊藤元彦, 寺松 孝: 溶連菌製剤 OK-432 による NATURAL KILLER 細胞の誘導, 第7回日本臨床免疫学会, (昭54.5)

寺松 孝: 胸腺—その基礎と臨床, 第36回胸部疾患学会東海地方会特別講演, (昭54.11)

3. 結 核

和田洋已, 外村聖一, 寺松 孝: 難治性慢性膿胸の治療計画について, 第54回日本結核病学会総会, (昭54.)
中納誠也, 小林君美, 井上律子, 山中 晃: 最近7年間の膿胸の治療に対する検討, 第53回日本結核病学会東海地方学会, 第35回日本胸部疾患学会東海地方学会, (昭54.6)

山本博昭: 宿題報告, 膿胸治療の体系化, 第28回共済医学会総会, (昭54.10)

平岩 卓, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 秋山文弥: 近年経験した胸結核5例, 第54回日本結核病学会東海地方会, (昭54.11)

4. 人 工 材 料

寺松 孝: 医用高分子バイオプラスチック, 第20回医学会総会シンポジウム, (昭54.4)

S. Watanabe, H. Kato, Y. Shimizu, T. Teramatsu, J. Endo, T. Murachi, and T. Hino: Studies on collagen-coated synthetic polymer composite carrying immobilized enzyme, Second Annual Meeting of the International Society for Artificial Organs, (昭54.4)

Y. Shimizu, Y. Miyamoto, S. Watanabe, H. Kato, M. Matsumoto, T. Teramatsu, T. Hino and S. Okamura: Study on Composite of collagen and synthetic polymer, Second Annual Meeting of the International Society for Artificial Organs, (昭54.4)

Y. Shimizu, M. Matsumoto, H. Kato, T. Hino and T. Teramatsu: Study on the reconstruction of the chest wall defect, VI Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest. (昭54.11)

寺松 孝: パネル討論, これからの医用高分子, 文部省特定研究医用高分子材料に関する基礎的研究, 第5回全体会議, (昭54.7)

渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝, 村地 孝, 日野常稔: 機能性医用材料としての酵素の固定化, 第1回バイオマテリアル学会大会, (昭54.9)

加藤弘文, 松延政一, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: Polyvinyl-alcohol-silica composite の血液適合性について, 第1回バイオマテリアル学会大会, (昭54.9)

渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝, 村地 孝, 日野常稔: 抗菌性医用材料としての酵素卵白リゾチームまたはペプチド系抗生物質ポリミキシンBの固定化, 第17回日本人工臓器学会大会, (昭54.11)

松延政一, 清水慶彦, 宮本好博, 加藤弘文, 渡部智, 和田洋已, 寺松 孝, 他2名: 細胞培養法による合成高分子材料の検定(Ⅱ報) —グルタルアルデヒド架橋によるコラーゲン合成材料の検定—, 第17回日本人工臓器学会大会, (昭54.11)

5. 心・血管

中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: PSを伴ったASDに対する外科治療, 日本心臓血管外科学会, (昭54.2)

中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 細菌性心内膜炎を合併した後天性弁膜疾患に対する手術, 日本心臓血管外科学会, (昭54.2)

田村康一, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 秋山文弥: 下肢動脈閉塞症例の外科的検討, 第111回静岡県外科医会集談会, (昭54.3)

篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一, 上野陽一郎, 秋山文弥: 腹部大動脈瘤に対する代用血管置換術7例の治験, 第111回静岡県外科医会集談会, (昭54.3)

中納誠也, 山中 晃, 井上律子, 小林君美: 僧帽弁交連切開術の適応について, 第95回岐阜外科集談会, (昭54.4)

辰己 学, 吉栖正之ほか: 両側腎血管高血圧症の2手術成功例—AI変換酵素阻害剤SQ14225試用—, 第14回兵庫県腎臓研究会, (昭54.4)

秋山文弥: シンポジウム“後天性弁膜症外科治療の現況と将来”発言, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一, 秋山文弥: 左上肺静脈還流異常症の一例, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一, 上野陽一郎, 秋山文弥: 連合弁膜症で僧帽弁狭窄症手術のみを行った症例の遠隔成績と手術適応, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

岡本交二, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: Annulo-aortic ectasia の治療経験, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

西内 素, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 有脈性体外循環の研究, AVCO社製 Pulsatile Bypass Pump による血行動態について, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 再開心術の諸問題, 第22回日本胸部外科学会地方会関西地方会, (昭54.4)

宮本 覚, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 乳幼児先天性心疾患に対する短絡手術の検討, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

岡部 学, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 両側腸骨動脈腎動脈バイパス術が奏効した腎血管性高血圧症の1手術例, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一, 秋山文弥, 水野春雄, 佐々木功, 石橋 貢, 普久原朝政: 総動脈幹症 I 型の手術経験, 第15回日本小児循環器研究会総会, (昭54.6)

宮本 覚, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 術後 LOS に対する IABP の効果とその限界, 第79回日本外科学会総会, (昭54.4)

山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: Xenograft を用いた僧帽弁置換術後の弁機能, 第79回日本外科学会総会, (昭54.5)

庄村東洋, 吉栖正之ほか: 急性呼吸不正及び悪性高体温症に対する股動静脈間バイパスを用いた補助循環の経験, 第8回膜型人工肺研究会, (昭54.6)

山岡誠二, 吉栖正之ほか: 僧帽弁疣贅の超音波像, 第47回日本循環器学会近畿地方会総会, (昭54.6)

柳原皓二, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 腱索断裂の超音波所見の多様性, 第47回日本循環器学会近畿地方会総会, (昭54.6)

庄村東洋, 吉栖正之ほか: 特発性僧帽弁腱索断裂に対する外科的考察, 第47回日本循環器学会近畿地方会総会, (昭54.6)

中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 完全型心内膜床欠損症に対するわれわれの弁葉中隔形成術について, 第47回日本循環器学会地方会総会, (昭54.6)

庄村東洋: 僧帽弁膜症に対する手術術式選択について, 第1回近畿臨床心臓病談話会, (昭54.7)

立道 清: A-V Malformation の6症例, 第3回兵庫県血管外科研究会, (昭54.7)

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥, 泰江弘文, 表信吾, 滝沢明憲, 永尾正男: 心筋梗塞急性期に行なった緊急 A-C バイパス手術の一例, 第113回静岡県外科医会集談会, (昭54.9)

小林君美, 森 厚, 中納誠也, 井上律子, 山中晃, 住友伸一: 国立療養所「循環器研究会」の現況—特に心臓手術の現況について—, 第34回国立病院療養所総合医学会, (昭54.10)

立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 右鎖骨下静脈弁狭窄の一症例, 第20回日本脈管学会総会, (昭54.10)

立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 肺塞栓症に対する緊急手術の経験, 第32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)

庄村東洋, 吉栖正之ほか: 腱索断索断裂を伴った僧帽弁逸脱症候群に対する外科療法, 第32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)

中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之ほか: 細菌性心内膜炎の外科治療, 特に活動期手術に対する検討, 第32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 当院における末梢動脈閉塞性疾患に対する手術治療成績, 日本循環器学会第50回東海第35回北陸合同地方会, (昭54.11)

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 結核と収縮性心膜炎, 第54回日本結核病学会東海地方会, (昭54.11)

篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一, 上野陽一郎, 千原幸司, 秋山文弥: 肺高血を伴った僧帽弁狭窄症の病態と手術予後, 第32回日本胸部外科学会総会, (昭54.11)

堀江 稔, 永尾正男, 滝沢明憲, 表 信吾, 泰江弘文, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎: 外科的手術を施行した急性心筋梗塞による心破裂の一例, 日本循環器学会第50回東海第35回北陸合同地方会, (昭54.11)

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥, 泰江弘文, 表 信吾, 滝沢明憲, 永尾正男: 急性心筋梗塞及び開心術後に於ける IABP 使用例の検討, 日本循環器学会第50回東海第35回北陸合同地方会, (昭54.11)

篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 千原幸司, 岡田賢二, 平岩卓根, 秋山文弥: 腹部大動脈瘤に対する代用血管置換手術例の検討, 日本循環器学会第50回東海第35回北陸合同地方会, (昭54.11)

福中道男, 伊東政敏, 他2名: 年長児重症肺高血圧合併先天性心疾患の手術治療, 第79回岡山外科医会, (昭54.6)

6. 一般胸部疾患

前里和夫, 人見滋樹, カレッド・レシャード: 気管支鏡下肺生検が診断的価値をもった「びまん性肺疾患, 第

19回大阪内科懇話会, (昭54.2)

小笠原弘子, 立石昭三, 他: 筋神経疾患に対する炭酸ガス透折, 第4回京都救急研究会(京都府医師会), (昭54.2)

中島道郎, 立石昭三, 他: 肺門を中心に左右対称びまん性微小結節散布巣を呈し2週間で死亡した21才男子症例, 第5回びまん性肺疾患研究会, (昭54.2)

北野司久, 光岡明夫: 胸部外傷に対する手術経験, 奈良外科学会, (昭54.3)

畠中陸郎, 宮本茂充, 宮本好博, ニツ矢義一, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞夫: 気管ボタン(Tracheostomy Button)による慢性呼吸不全患者の患理, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

人見滋樹, 前里和夫, カレッド・レシャード, 玉田二郎, 他2名: 外科手術に伴う肺合併症と問題点—呼吸器外科と消化器外科を中心に, 第19回胸部疾患学会総会, (昭54.4)

前里和夫, カレッド・レシャード, 人見滋樹, 立花暉夫: びまん性肺疾患に対する気管支鏡下肺生検(TBLB)の適応と限界, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

玉田二郎, 住友伸一, 千原幸司, 松村理司, 加藤弘文, 和田洋已, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 外科手術に伴う肺合併症と問題点—術後無気肺に対する経鼻的フレキシブル気管支鏡下吸引, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

桑原正喜, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺外科における肺合併症—術後無気肺とその対策, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, ニツ矢義一, 桑原正喜, 宮本茂充, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: びまん性肺疾患に対する胸腔鏡下肺生検, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

中島道郎, 立石昭三: 夏型過敏性肺蔵炎について, 第19回日本胸部疾患学会総会, (昭54.4)

秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一, 上野陽一郎: ポーランド症候群7例とその2手術例について, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

立石昭三, 他: 気管支動脈栓塞の適応と手技, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

坂東義清, 伊東政敏, 他2名: Poland 症候群の1手術治験, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

茂幾俊武, 伊東政敏, 他2名: 自然気胸の手術経験, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之: 両性巨大ブラに対する同時開胸手術の有用性, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

桑原正喜, 他9名: 巨大肺嚢胸症10例の臨床的検討, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

宮本茂充, 他9名: 両側手術気胸例の術後肺機能, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

加藤弘文, 玉田二郎, 長瀬千秋, 和田洋已, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 横隔膜再建2, 3の試み, 第22回日本胸部外科学会関西地方会, (昭54.4)

加藤弘文, 住友伸一, 千原幸司, 清水慶彦, 寺松 孝: 漏斗胸のシリコン樹脂充填術に対する再手術の1例, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)

カレッド・レシャード, 前里和夫, 人見滋樹: 胸腔からの抗生剤の血中移行—開胸術を中心に, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)

宮本好博, 宮本茂充, 桑原正喜, ニツ矢義一, 滝 俊彦, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 気管支内異物の4例, 第125回近畿外科学会, (昭54.5)

松延政一, 高嶋義光, 和田洋已, 外科聖一: 気管気管支巨大症の1例, 第17回日本社会保険学会, (昭54.)

Masayoshi Kuwabara, Toshihiko Taki, Rikuro Hatakenaka, Yoshito Matsubara, Sadao Ikeda: The surgical treatment of bullous emphysema-A new method for management of giant bulla, The XXVIIIth Congress De L'association Internationale De Bronchopneumologie. (昭54.5)

山中 晃, 中納正也, 井上律子, 小林君美: 両側進行性気腫性嚢胞の一症例, 第96回岐阜外科集談会, (昭54.6)

岡田静夫, 人見滋樹: 同胞3人に出現した肺びまん性陰影について, 第6回びまん性肺疾患研究会, (昭54.7)

岡田静夫, 人見滋樹: 溶接工肺として管理中に増悪を示した1例, 第6回びまん性肺疾患研究会, (昭54.7)

宮本好博，池田貞雄：Pap M型を認め低酸素血症を来たしたびまん性肺の1例，第6回びまん性肺疾患研究会，（昭54.7）

二宮和子，二ツ矢義一，小鯖 覚，宮本茂充，宮本好博，滝 俊彦，松原義人，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄：胸膜炎の鑑別診断，第31回肺癌学会関西支部会，（昭54.7）

加藤弘文，玉田二郎，渡部 智，和田洋巳，清水慶彦，伊藤元彦，寺松 孝：漏斗胸外来受診患者の統計的観察，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

前里和夫，人見滋樹，カレッド・レシャード，立花暉夫：サルコイドーシスの気管支・肺生検，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

立花暉夫，人見滋樹，前里和夫，岡田静夫：非サルコイドーシス性両側性肺門リンパ節腫脹症例の検討—塵肺症例—，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

カレッド・レシャード，人見滋樹，前里和夫：胸膜の抗生剤の透過性，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

光岡明夫，宮本好博，北野司久：僧帽弁閉鎖不全症に伴った Pulmonary ossification の1例，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

玉田二郎，高橋憲太郎，伊藤元彦，寺松 孝：Tracheopathia Osteoplastica の1例，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

岡田英彦，倉田昌彦，永見義隆，室本 仁，藤田正憲，石井昌生，内藤裕子：肺胞蛋白症の1例，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

小鯖 覚，宮本茂充，滝 俊彦，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：慢性呼吸不全患者に対する間歇的機械呼吸，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

宮本茂充，小鯖 覚，滝 俊彦，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：気管ボタンによる慢性呼吸不全患者の管理，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

李 勝弘，立石昭三，他：呼吸不全に対する気管切開の合併症，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

中島道郎，立石昭三，他：われわれの経験した呼吸不全症例の検討，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

浜本康平，立石昭三，他：術後 ARDS を来たした肺癌の1例，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

橋本圭司，立石昭三：化学療法が奏効した両側肺クリプトコッカス症の1例，第15回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭54.10）

宮本茂充，他10名：自然気胸の治療—271例の臨床的検討，第32回日本胸部外科学会総会，（昭54.11）

秋山文弥，篠崎 拓，島本光臣，田村康二，上野陽一郎，千原幸司：漏斗胸に対する腹直筋有茎性胸骨翻転術一術式と遠隔成績—，第32回日本胸部外科学会総会，（昭54.11）

H. Yamamoto: Simultaneous Bilateral Thoracotomy for Recurrent Spontaneous Pneumothorax, VI APCDC, (昭54.11)

Hirofumi Kato, Jiro Tamada, Hiromi Wada, Yasuhiko Shimizu, Motohiko Ito, Takashi Teramatsu: Congenital Deformity of The Chest Wall—Our Experience In The Western District, VI APCDC, (昭54.11)

宮本好博，光岡明夫，北野司久：Poland 症候群における Marlex mesh を用いた胸壁再建の1例，第126回近畿外科学会，（昭54.11）

光岡明夫，宮本好博，北野司久：胸骨翻転術（漏斗胸）の検討—胸骨短縮法，キルシュナー，綱線固定法の適用，第126回近畿外科学会，（昭54.11）

竹内義弘，庄村東洋，吉栖正之：肺クリプトコッカスの1治験例，第126回近畿外科学会，（昭54.11）

宮本茂充，小鯖 覚，滝 俊彦，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：巨大ブラの手術成績，第126回近畿外科学会，（昭55.11）

カレッド・レシャード，人見滋樹，前里和夫：漏斗肺の手術—皮膚横切開法を中心に，第126回近畿外科学会，

(昭54.11)

中納誠也：特別報告，肺嚢胞症の外科治療の適応について，第36回日本胸部疾患学会東海地方学会，(昭54.11)

岡田賢二，篠崎拓，島本光臣，上野陽一郎，千原幸司，平岩卓根，秋山文弥：肺動静脈瘻の一例，第36回日本胸部疾患学会東海地方会，(昭54.11)

上野陽一郎，篠崎拓，島本光臣，千原幸司，岡田賢二，平岩卓根，秋山文弥：胸部CTを用いた漏斗胸変形の指数化表現の試み，第36回日本胸部疾患学会東海地方会，(昭54.11)

立石昭三，他：気管・無名動脈瘻の救急処置，第26回救急学会近畿地方会，(昭54.12)

秋山文弥，篠崎拓，島本光臣，上野陽一郎，千原幸司，岡田賢二，平岩卓根：漏斗胸の小児期手術に関する諸問題，第13回日本小児外科学会東海地方会，(昭54.12)

病 理 学 部 門

〔研究業績〕

1. 肉芽研究グループ（安平他）

結核性肉芽研究は一段落し，年来の成績をとりまとめて，国際誌に投稿中である。目下は肺の好酸球肉芽症モデル作成の努力が続けられている。

〔学会発表〕

安平公夫，木下和之：肉芽に関する研究(2) 菌細胞壁 peptidoglycan 及びその構成要素 MDP, muramic acid 等の肉芽形成能，第68回日本病理学会総会講演(1979.4.1)

安平公夫，木下和三，松下隆寿，熊沢義雄：結核菌細胞壁の肉芽形成因子，第42回実験結核研究会総会講演(1979.4.9)

〔誌上発表〕

Kumazawa, Y., Mizunoe, K. & Yasuhira, K.: Mode of action of a mycobacterial water-soluble adjuvant, MAF3, Bull. Chest Dis. Res. Inst. Kyoto Univ. 12(1, 2): 1-9 (1979)

2. 結合組織研究グループ（竹田他）

この研究グループの業績は，次のように要約される。

- a. 8年来努力を重ねてきた自然発症老化モデル動物系統樹立に，ようやく曙光が見えるようになった。即ち AKR マウスにおいて寿命が短く，早期は老化現象—脱毛，皮膚粗造化，脊椎彎曲，等—を示す3系統を得て現在17世代を重ね系統樹立にあと数代となった。この系統の中には生後一定期間にアミロイドあるいは白内障を100%発症する2系統が含まれる。今後系統樹立を期すると共に，これら病態モデルを使っての老化の基礎的研究を計画している。
- b. 培養線維芽細胞のコラーゲン合成能に及ぼす性ステロイドの影響についての研究が軌道にのり，今後線維芽細胞のホルモンレセプターの分化と核細胞の臓器特異性の関連が追究される予定。
- c. 結合組織成熟機構解明のための一連の実験として，子宮頸管 lysyl oxidase の検索が行われ，骨，皮膚で我々が明らかにしたように子宮頸管でも estrogen によって lysyl oxidase が賦活されることを明らかにした。
- d. 従来報告してきた D-ペニシラミン投与マウスにみられる重篤な病理所見が同剤の Cu キレート作用による Cu 欠乏状態に基因することが明かになった。現在，妊娠中の Cu を始めとする金属代謝と新生仔の神経系統の発達，結合組織成熟との関連を追究し興味ある知見を得つつある。

〔学会発表〕

竹田俊男，細川昌則：Fibroblast コラーゲン合成能におよぼす性ステロイドの影響，厚生省皮膚・結合組織異常調査研究班53年度分科会並びに総会，(昭54.2)

竹田俊男, 細川昌則, 佐川弥之助, 佐藤公彦: 培養線維芽細胞の線維形成について, 第13回肺線維症シンポジウム, (昭54.3)

細川昌則, 石井正治, 山室隆夫, 竹田俊男: 結合織に関する実験的研究 9. マウス皮膚線維芽細胞のコラーゲン合成能におよぼす性ホルモンの影響, 第68回日本病理学会総会, (昭54.4)

入野美香, 田代真一, 竹田俊男, 安平公夫: D-penicillamine 投与動物にみられる病理所見とその病理発生, 第68回日本病理学会総会, (昭54.4)

小笹 宏, 富永敏朗, 西村敏雄, 竹田俊男: 培養ヒト線維芽細胞の細胞機能とアンドロゲンリセプター, 第52回日本内分泌学会総会, (昭54.6)

竹田俊男, 細川昌則, 竹下修史, 入野美香, 松下隆寿, 富田由美子, 安平公夫, 浜本 肇, 清水克時, 石井正治, 山室隆夫: 老化モデル動物系統樹立の試み, 第11回日本結合組織学会総会, (昭54.7)

細川昌則, 竹田俊男: エストロゲンの培養線維芽細胞コラーゲン合成能におよぼす影響, 第11回日本結合組織学会総会, (昭54.7)

鳴尾好人, 長沢史朗, 奥村 厚, 半田 肇, 竹田俊男: 頭蓋内・外動脈壁の collagen 量, elastin 量の化学的定量, 第11回日本結合組織学会総会, (昭54.7)

小笹 宏, 富永敏朗, 西村敏雄, 竹田俊男: マウス頸管 lysyl oxidase 活性について, 第11回日本結合組織学会総会, (昭54.7)

入野美香, 真田浩幸, 安平公夫, 竹田俊男, 田代真一: 妊娠, 授乳期 D-penicillamine 投与の新生仔におよぼす影響について, 第11回日本結合組織学会総会, (昭54.7)

竹田俊男, 細川昌則, 竹下修史, 入野美香, 松下隆寿, 富田由美子, 安平公夫, 浜本 肇, 清水克時, 石井正治, 山室隆夫: 老化モデル動物系統樹立の試み, 日本基礎老化研究会第3回大会, (昭54.7)

田代真一, 入野美香, Chee-Soon Yao, 安平公夫, 竹田俊男: マウスにおける D-ペニシラミンの神経毒性, 日本薬学会第99回年会, (昭54.8)

〔誌 上 発 表〕

Shikata, J., Sanada, H., Yamamuro, T. and Takeda, T.: Experimental studies of the elastic fiber of the capsular ligament: Influence of ageing and sex hormones on the hip joint capsule of rats. *Connective Tissue Res.* 7: 21-27, 1979.

3. 免疫グループ (安平他)

森川茂氏が在職中に指導した実験のいくつかは, 現在残務整理的に報告されている。その主なものは次の2つである。

〔誌 上 発 表〕

Mitsuoka, A., Morikawa, S., Baba, M. & Harada, T.: Cyclophosphamide eliminates suppressor T cells in age-associated central regulation of delayed hypersensitivity in mice, *J. Exp. Med.* 149: 1018-1028 (1979)

Tatsumi, E., Takiuchi, Y., Domae, N., Shirakawa, S., Uchino, H., Baba, M., Yasuhira, K. & Morikawa, S.: Suppressive activity of some leukemic T cells from adult patients in Japan, *Clin. Immunol. Immunopathol.* 15: 190-199 (1979)

4. 化学発癌グループ (安平他)

このグループのリーダーでもあり, アクチーフメンバーでもあった高橋助手を失って, グループとしての活動力も低下したが, 引続いてガスマスによる MC 代謝物の同定が行われ, trihydroxy 体が新しく注目をあびている。

〔学 会 発 表〕

安平公夫, 木下和之, 橋本研二, 高橋権也: Gas chromatography-mass spectrometer (GC-MS) による 3-methylcholanthrene (MC) 代謝産物の同定, 第38回日本癌学会総会講演, (1979.9.27)

〔誌 上 発 表〕

Kinoshita, K., Takahashi, G. & Yasuhira, K.: Lung tumors in mice suckled by 3-methylcholanthrene-treated mothers, *Bull. Chest Dis. Res. Inst. Kyoto Univ.* 12(1, 2): 10-16 (1979)

Takahashi, G., Kinoshita, K., Hashimoto, K. & Yasuhira, K.: Identification of benzo(a)pyrene metabolites by gas chromatography-mass spectrometer, *Cancer Res.* 39: 1814-1818 (1979)

5. 肺表面活性物質研究グループ (鈴木他)

昨年に続き、肺表面活性物質の組成変化と、表面活性との関連ならびに産生調節の機構解明に取り組んでいるが、4-アミノピラゾロピリミジンが、肺表面活性物質に特に多いとされる phosphatidyl glycerol を可逆的に減少させ、更に表面活性にも変化を与えることを見出した。現在まで、このように特異的に、同脂質量を変化させる手段は見出されておらず、この知見の肺脂質代謝研究における意義は大きい。さらに、*in vitro* において、表面活性リポ蛋白質の再構成を行い、人工的表面活性物質を用いて、各構成成分の意義、脂質組成変化と活性変化について検討を行っている。

〔学 会 発 表〕

田畑良宏：肺の脂質代謝，昭和53年度京大胸部研学術講演会，79-1-27.

鈴木康弘，田畑良宏，大川欣一：ラット肺表面活性物質の脂質組成に及ぼす4-アミノピラゾロピリミジンの影響，第68回日本病理学会総会，79-4-2.

鈴木康弘：肺表面活性物質の組成変化と表面活性，第31回国立大学附置研究所談話会，79-1-13.

鈴木康弘，田畑良宏：4-アミノピラゾロピリミジンによるラット肺表面活性物質の組成変化，第9回日本界面医学会，79-12-6.

〔誌 上 発 表〕

R. Tabata: Experimental study on the effect of essential fatty acid deficiency on pulmonary surfactant, *Arch. Jap. Chirur.* 48: 571-586, 1979.

R. Tabata, H. Takeda, A. Takabayashi, & K. Hemmi, Case Report: Two cases of juvenile polyp. *Arch. Jap. Chirur.* 48: 645-650, 1979.

久世文幸，李 英徹，前川暢夫，鈴木康弘：実験的非定型抗酸菌症に関する研究 (2)，結核，54: 453-460, 1979.

6. 臨床病理検査グループ (木下和乏，松下巖，黒住真史，山根ます子，病理部医員)

黒住氏のたゆまぬ努力を中心に、このグループにも次第に研究グループとしての雰囲気が生れてきた。本年度の業績は学会発表3である。

〔学 会 発 表〕

松下 巖，竹田俊男：舌根部より発生した腺様嚢胞癌，第20回日本臨床細胞学会総会，(1979.5)

松下 巖，鈴木博子，竹田俊男：胆嚢の癌肉腫，第18回臨床細胞学会秋期大会，(1979.11)

黒住真史，山根ます子，細川昌則，木下和之，鈴木康弘，竹田俊男，戸川真一，前川暢夫：燕麦細胞癌との鑑別に困難を伴い、広範な皮下転移を示した atypical bronchial carcinoid の一症例，第18回日本臨床細胞学会秋期大会，(1979.11)

7. 研究室人物往来

病理部門に属する教官としては、安平，竹田，鈴木と変更はないが、近年化学発癌の領域で大活躍をした高橋権也助手が辞任し、代って細田昌則が助手に任ぜられた。この辞任は、化学発癌グループにとっては危機的状况であり、研究所にとってもはなはだ残念なことであるが、細川の大活躍で、結合織研究グループは更に活力を増

した状態にある。このグループからは、真田浩幸、四方実彦等が巣立っていったが、新たに研修生として竹下修史、松村敦子の両氏が加り、大学院学生入野美香、小笹宏、井上正治、清水克時等の諸氏が若々しさを盛りあげて、研究は早朝より深夜に及ぶと聞く。研修生の田畑良宏は鈴木助手と共に表面活性物質の分析に取り組み、また大学院学生の橋本研二は、医員の木下和之共々癌研究グループで研究を行っている。研究介助は松下隆寿、小岸久美子、富田由美子の3氏、本年度の非常勤講師は水島裕（聖マリアンヌ医大、内科）、熊沢義雄（北里大薬学部）、馬場満男（関業）、五十嵐三都男（東京都立老人研）、鶴藤 丞（東北大薬学部）の5氏である。

細胞化学部門

〔学会発表〕

永田和宏，市川康夫：マウス骨髄性白血病細胞の増殖と分化 XIII. 分化に伴う収縮性たん白アクチンの変化，第38回日本癌学会総会，（昭54.9）東京。

堀内正宏，市川康夫：マウス骨髄性白血病細胞の増殖と分化，XIV. In vitro CFU-C の維持に関する液性因子，同上学会。

前田道之，市川康夫，東 市郎：マウス骨髄性白血病細胞の増殖と分化，XV. BCG, Nocardia rubra-CWS 等による分化促進作用，同上学会。

〔誌上発表〕

市川康夫：血液細胞の分化，科学，**49**，28-35，1979。

K. Nagata & Y. Ichikawa: Requirements for RNA and protein synthesis in the induction of several differentiation-markers in a myeloid leukemia cell line. J. Cell. Physiol. **98**, 167-176, 1979.

M. Horiuchi, K. Nagata & Y. Ichikawa: "Determination" of differentiation of bipotent hemopoietic progenitor cells in vitro. Exp. Cell Res. **123**, 247-252, 1979.

K. Hirai, K. Nagata, M. Maeda & Y. Ichikawa: Changes in ultrastructures and enzyme activities during differentiation of myeloid leukemia cells to normal macrophages. Exp. Cell Res. **124**, 269-283, 1979.

M. Maeda, & Y. Ichikawa: Production of a colony-stimulating factor following differentiation of leukemic myeloblasts to macrophages. J. Cell. Physiol. (印刷中)

細菌血清学部門

〔学会発表〕

桂 義元，高沖悠子：キラー細胞誘導におけるウィルス感受性T細胞の役割，第9回日本免疫学会総会，（昭54.12月）東京。

喜納辰夫，桂 義元：PWM 刺激によるB細胞反応におけるウィルス感受性T細胞の役割，第9回日本免疫学会総会，（昭和54.12月）東京。

網野正道，桂 義元：ハプテン修飾胸腺細胞の同系リンパ球増殖刺激性；その加齢による変化と同種リンパ球増殖刺激性との比較，第9回日本免疫学会総会，（昭和54.12月）東京

〔誌上発表〕

Hosono, M., and Fujiwara, M.: Studies on the resistance to tolerance induction against human IgG in DDD mice. I. Organ difference of tolerogen susceptibility and cellular sites responsible for the resistance. Cell. Immunol., **42**, 279-288 (1979).

Hosono, M., and Fujiwara M.: Studies on the resistance to tolerance induction against human IgG in DDD

mice. II. Tolerogen-resistant T-cell population in the spleen. *Immunology*, **37**, 353-359 (1979).

Hosono, M., and Fujiwara, M.: Studies on the resistance to tolerance induction against human IgG in DDD mice. III. Development of the resistance with age and cellular events. *Cell. Immunol.*, **33**, 262-269 (1979).

臨床肺生理学部および放射線科

〔学会・研究会発表〕

- 加藤幹夫：低酸素血症をめぐる2～3の問題，昭和54年結核胸部疾患研究所同窓会講演会，昭54.1.
佐川弥之助：認定と障害度の決定に必要な検査，全国公害認定委員会，1979.2.
佐川弥之助：肺機能検査，とくに closing volume および flow-volume curves, 高知県呼吸器疾患研究会，1979.2.
藤田正憲，室本 仁：肺スキャンで欠損を認め肺塞栓症を疑った2例，第19回大阪内科懇話会，1979.2.
藤田正憲，室本 仁，倉田正彦，岡田英彦：肺腺がんの臨床像について，第30回肺がん学会関西支部会，1979.2.
市谷迪雄，弘野慶次郎，坪井裕志，宮川トシ，越智規夫：発熱咳嗽と倦怠感を主訴とし，肺野のびまん性陰影を呈した症例，第5回びまん性肺疾患研究会，1979.2.
佐藤公彦，佐川弥之助：ARDS に及ぼす2, 3の薬剤の効果，厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班総会，1979.3.
竹田俊男，細川昌則，佐川弥之助，佐藤公彦：培養線維芽細胞の線維形成について，第13回 FLD シンポジウム
加藤幹夫：肺性肺水腫の臨床，堺市医師会学術講演会，1979.3.
大井元晴，上平知子，芳賀敏彦：呼吸刺激剤の効果，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和53年度第2回総会，(昭54.3)
大井元晴，上平知子，倉島篤行，町田和子，芳賀敏彦，布施政好：慢性呼吸不全における吸気時間のインピーダンスニューモグラフィーによる検討，第19回日本胸部疾患学会総会，昭54.4.
佐川弥之助，久野健志，三嶋理晃：肺循環，シンポジウム「慢性閉塞性肺疾患」第20回日本医学総会，1979.4.
加藤幹夫：肺血流をめぐる諸問題，2肺血流を規定する因子，Hypoxia, 第19回日胸疾総会パネルディスカッション，昭54.4.
M. Kato: Hypoxic vasoconstriction as a regulator of local VA/Q Seminars on “Blood gas, respiration and pulmonary vascular function” April 1979, 4.
加藤幹夫：血液ガス・酸塩基平衡と看護，術直後における動脈血ガスの活用と看護，チーム医療第3回メヂカルセミナー，昭54.4.
宮本好博，甲斐隆義，他8名：びまん性肺疾患に対する胸腔鏡下肺生検，第19回日本胸部疾患学会総会，昭54.4.
弘野慶次郎，坪井裕志，市谷迪雄：肺ジストマ症の1例，第22回日本胸部外科関西地方会，昭54.4.
田巻，安田隆三郎，他10名： ^{133}Xe の冠動脈内投与による心筋局所血流の測定，日循総会，昭54.4.
平田，安田隆三郎，他8名：心臓右房原発の粘液肉腫の1手術例，日胸外関西地方会，昭54.4.
中井栄一，浅本 仁，古田睦房，北市正則，徐航霄：フリーズフラクチャー法による正常マウス肺組織の超微細構造の観察，第68回日本病理学会総会，昭54.4.
宮本茂充：両側気胸例の術後肺機能，第22回日本胸部外科学会関西地方会，昭54.4.
浅井信明：一側肺剔出後の遺残胸腔の病態生理，第19回日本胸部疾患学会総会，昭54.4.
佐川弥之助：胸部X線像と肺機能障害，医学教育セミナー，1979,5.
宮本茂充：自然気胸の治療，271例の臨床的検討，第32回日本胸部外科学会総会，1979.5.
横田，安田隆三郎，他6名：PADによる拍動流を用いた重症例開心術の臨床的検討—特に乳幼児重症例にお

ける効果, 日外総会, 1979.5.

石部裕一, 他: アンドーシス時の高カリウム血症に及ぼすサイアミラールの影響, 第26回日本麻酔学会総会, 1979.5.

大井元晴, 倉島篤行, 馬場 真, 浦上栄一, 米田良蔵, 芳賀敏彦: RFP 投与中に, 胸部レ線陰影増強例の肺生検所見, 第95回日本結核病学会関東支部学会, 1979.5.

平田, 安田隆三郎, 他8名: 右心房原発の粘液肉腫の1剖検例, 日循近畿地方会, 1979.6.

佐川弥之助, 久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 東谷康治: 体外計測による肺循環動態の研究, 第19回閉塞性肺疾患研究会, 1979.7.

藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦: 肺原発細網肉腫の1例, 第31回肺がん学会関西支部会, 1979.7.

甲斐隆義, 原 修身, 花輪四郎: 癌性疼痛に対するブロンプトン水剤の使用経験, 第17回肺癌学会九州地方会, 1979.7.

宮本茂充: 縦隔に原発し, α -Fetoprotein が高値を示した yolk sac tumor の1例, 1979.7.

加藤幹夫: 血液ガス所見と拡散能測定値の経過について, 第14回 FLID シンポジウム自由討論「FLID と拡散障害」, 1979.9.

倉田昌彦, 藤田正憲, 室本 仁, 岡田英彦: 悪性縦隔腫瘍の CT スキャン, 第20回日本肺がん学会総会, 1979.9.

甲斐隆義, 原 修身, 花輪四郎, 日野 出: 国立大分病院呼吸器科における肺癌症例の検討, 第21回大分県内科医学, 1979.9.

宮本茂充: 肺癌患者における異所性 ACTH, α_1 -antitrypin, 第20回肺癌学会総会, 1979.9.

佐川弥之助: 肺水腫, シンポジウム「肺水腫」, ACCP 日本支部総会, 1979.10.

李 勝弘, 安井浩明, 島田一恵, 佐川弥之助, 橋本圭司, 松井理司, 浜本康平, 立石昭三, 中島道郎, 日置辰一郎: 呼吸不全に対する気管切開の合併症, 第15回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1979.10.

島田一恵, 野尻知里, 大成功一, 矢野博正, 佐藤公彦, 浅井信明, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 長期間レスピレーターを使用した呼吸不全の2症例, 同上

大成功一, 太田和夫, 浅井信明, 加藤幹雄, 佐川弥之助: 肺内皮様嚢腫からの悪性化が疑われた肺癌の1例, 同上

甲斐隆義, 原修身, 花輪四郎, 池田貞雄, 宮本茂充: 肺癌患者における癌性疼痛の対策, 第34回国立病院療養所総合医学会, 昭54.10.

原 修身, 甲斐隆義, 花輪四郎: 「サルコイドーシス肝」の1例; 国立別府病院研究検査科, 昭54.10.

Dr. A. B. DuBois: Mechanics of Respiration, Circulation, and Body Fluid Balance, 京大胸部研大会議室, 昭54.10.

平田, 安田隆三郎: 直視下僧帽弁交連切開術の手術例, 滋賀循環器疾患研究会, 昭54.10.

市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 小田芳郎, 内平文章, 北市正則: 過敏性肺臓炎の1例, 第45回日本結核病学会第15回日本胸部疾患学会近畿地方会, 昭54.10.

坪井裕志, 市谷迪雄, 弘野慶次郎, 田中瑩子, 北市正則: びまん性肺疾患の1症例, 第45回日本結核病学会第15回日本胸部疾患学会近畿地方会, 昭54.10.

徐 航霄, 佐藤公彦, 佐川弥之助, 中井栄一: オゾン (O₃) 暴露によるマウス肺の超微形態学的変化—フリーズフラクチャー法による観察—, 第11回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 昭54.10.

徐 航霄, 中井栄一: 加齢に伴うマウス肺胸膜の超微形態学的変化—走査型電顕による観察—, 第11回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 昭54.10.

中井栄一, 熊野公子, 徐 航霄: Tリンパ球性の白血病細胞のフリーズフラクチャー法による観察—形質膜, 核膜を中心として—第11回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 昭54.10.

室本 仁, 小川道子, 本田裕宏: 尖外套症候群を呈した真菌症の1剖検例, 第76回阪神合同 C.P.C. 昭54.10.

岡田英彦, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦: 肺胞蛋白症の1例, 第15回胸部疾患学会近畿地方会, 昭54.10.

石部裕一, 他: acute preoperative hemodilution による外科手術の問題点, 第24回日本麻酔学会関西地方会,

昭54.10.

石部裕一, 他: 血液加温器用 Air trap の試作, 第25回日本麻酔学会関西地方会, 昭54.10.

石部裕一, 他: 動静脈電解質較差について, 第25回日本麻酔学会関西地方会, 昭54.10.

太田和夫, 他: 側彎症の検診, 第53回中部日本整形災害外科学会: 昭54.10.

石部裕一, 他: 人工心肺併用超低体温麻酔の臨床経験, 第25回日本麻酔学会関西地方会, 昭54.10.

石部裕一, 他: 成人における経皮的酸素分圧測定装置—オキシモニターの使用経験, 第25回日本麻酔学会関西地方会, 昭54.10.

長山直弘, 林隆司郎, 米田修一, 工藤翔二, 北村 諭, 小坂樹徳, 大井元晴, 芳賀敏彦: 自然気胸, 縦隔気腫を併発した粟粒結核の2例, 第96回日本結核病学会関東支部学会, 昭54.11.

加藤幹夫: 臨床肺機能検査(1)~(5), 京都市衛生検査技師会生理分科会, 昭54.5~11.

原 修身, 甲斐隆義, 花輪四郎: Good pasture 症候群の1例, 第14回日本胸部疾患学会九州地方会, 昭54.11.

原 修身, 甲斐隆義, 花輪四郎: サルコイドーシス肝の2例, 第14回日本肝臓学会西部会, 昭54.11.

市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 閉塞性換気障害を有する患者の開胸術, 第32回日本胸部外科学会総会, 昭54.11.

市谷迪雄, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 徐 航霄, 内平文章, 田中螢子: 肺結核10年以上を経過した症例の右心負荷心電図と換気機能, 第15回日本赤十字社医学会総会, 昭54.11.

永本 浩, 仁瓶誠五, 徐 航霄, 稲葉宣雄: Kartagener 症候群の電顕的考察, 第31回日本気管食道科学学会総会, 昭54.11.

徐 航霄, 稲葉宣雄, 永本 浩, 仁瓶誠五: The Immobile-cilia syndrome (Kartagener's syndrome) 1症例の電顕的観察, 第15回日本赤十字社医学会総会, 昭54.11.

石部裕一, 他: 動脈血を用いる電解質測定の臨床的問題点, 近畿大学医学会, 昭54.12.

坪井裕志, 市谷迪雄, 弘野慶次郎, 田中螢子, 北市正則: 胸部レ線上, びまん性陰影と胸水貯留がみられた1例, 第7回びまん性肺疾患研究会, 昭54.12.

藤田正憲, 室本 仁: 診断困難であった胸部レントゲン像, 北野病院集談会, 昭54.12.

山田久和, 中村 健: けい肺を合併した褐色細胞腫の1例, 第100回内科学会近畿地方会, 昭54.12.

藤田正憲, 室本 仁, 古政孝政, 河崎 昭: 肺胞蛋白症様の組織像を呈し, 出血性膀胱炎を合併した Cyclophosphamide 肺臓炎の1例, 第100回日本内科学会近畿地方会, 昭54.12.

東谷康治, 三嶋理晃, 久野健志, 佐川弥之助: 体外計測による肺循環の研究, 第5回中国・九州肺機能同好会, 1979.12.

大井元晴, 石塚葉子, 米田良蔵, 芳賀敏彦, 栗崎博司: 興味ある経過をとった呼吸管理の一例(呼吸不全で診断され, 横隔膜麻痺を伴い, 臥位ではレスピレーターより離脱困難であった筋萎縮性側索硬化症の1例), 第43回臨床呼吸生理研究会, 1979.12.

安井浩明, 李 勝弘: 気管切開の合併症, 第2回京都大学結核胸部疾患研究所臨床肺生理学部門研究会, 1979.12.

安田隆三郎: 気管支喘息重積発作の1症例, 同上.

石部裕一: ICU で管理した CO₂ ナルコーシスの2例, 同上.

関川利幸, 折田雄一, 大道重夫: 筋ジストロフィー患者の呼吸不全の治療経験—間歇的夜間呼吸管理の有用性—, 同上.

宮本茂充, 小鯖 覚, 滝 俊彦, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 慢性呼吸不全患者に対する週末機械呼吸の応用, 同上.

佐藤公彦: 肺水腫の電顕像, 同上.

藤田正憲, 室本仁: 肺血流スキャンで区域性欠損を認め肺栓塞症を疑った2例, 同上.

加藤達治, 延吉正清: 肺動脈病変の5例, 同上.

田苗英次, 安田隆三郎: 左肺動脈欠損の1例, 同上.

東谷耕治, 久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 体外計測による肺循環動態の解析, 同上.

- 大井元晴：呼吸不全で診断された Amyotrophic lateral sclerosis の1例，同上。
 坪井裕志，市谷迪雄，弘野慶次郎：びまん性間質性肺炎・肺線維症の3例について，同上。
 甲斐隆義：Good pasture's syndrome の1例，同上。
 甲斐隆義：国立大分病院における肺癌症例の検討，同上。
 太田和夫：側彎症の肺機能，同上。

〔誌 上 発 表〕

- 佐川弥之助：血管外肺水分量の測定法の研究，日本医事新報，No. 2857, 1979.
 佐川弥之助：I. 呼吸機能検査：血管外肺水分量の測定，現在臨床機能検査，日本臨床社 1979.
 佐川弥之助，久野健志，三嶋理晃：慢性閉塞性肺疾患，肺循環，第20回日本医学会総会誌，943, 1979.
 佐川弥之助：外科医に必要な検査法とその読み方，外科治療，41: 155, 1979.
 佐川弥之助：ARDS，基本的な考えかた—歴史と定義，現代医療，11: 1115, 1979.
 Yanosuke Sagawa: Development of present understanding of the acute respiratory distress syndrome and its pathologic change in the lung, Report of the XIII world congress on diseases of the chest, 152, 1979.
 佐川弥之助：呼吸不全の臨床，1. 肺疾患と呼吸不全，内科セミナーRes6，呼吸管理・RCU，永井書店，1979.
 佐川弥之助：肺機能からみた全射麻酔下での手術の安全限界，内科診療Ⅱ，六法出版，1979.
 佐川弥之助：持続性せき・たんと二酸化窒素濃度との相関に関する疑問，二酸化窒素に係る環境基準検討委員会報告，31，京都市公害防止計画研究会二酸化窒素に係る環境基準検討委員会，1979.
 佐藤公彦，佐川弥之助，竹田俊男：実験的 paraquat 肺臓炎について，肺線維化の機序をめぐるシンポジウム第10・11回研究会記録，8，FLD シンポジウム，1979.
 佐藤公彦，佐川弥之助：細胞障害性肺水腫に対する2,3の薬剤の効果について，厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和53年度研究業績，1979.
 大井元晴，上平知子，芳賀敏彦：呼吸刺激剤の効果，同上，1979.
 加藤幹夫：総説混合静脈血，呼吸と循環27，112-120，昭54.
 前川暢夫，加藤幹夫他：呼吸器病学展望，日本医事新報，2861: 10~17. 昭54.
 山田久和，加藤幹夫：Closing Volume 現代臨床機能検査法，725~726，日本臨床社，昭54.
 加藤幹夫，三嶋理晃：肺拡散能検査と技術7，298~303，昭54.
 加藤幹夫：胸壁，肺，縦隔，外科マニュアル，永井書店，昭54.
 加藤幹夫：肺胞気管支系の異常拡張および閉塞，説臨床内科講座—第8巻，呼吸器〔2〕，メジカルビュー社，昭54.
 加藤幹夫，野尻知里，佐川弥之助：酸・塩基平衡の維持，内科シリーズ，慢性閉塞性肺疾患のすべて，306~316，南江堂，昭54.
 加藤幹夫：塩酸基調節，特集呼吸生理の諸問題，呼吸と循環28，21~23，昭5.
 石部裕一，他：硬膜外麻酔の合併症 3) 持続カテーテルの血管内挿入，麻酔28巻2号，昭54.
 石部裕一，他：Succinylcholine による血清K上昇におよぼす lidocaine および pancuronium の影響，臨床麻酔3巻4号，昭54.
 石部裕一，他：内頸静脈穿刺法の一改良法，麻酔28巻5号，昭54.
 石部裕一，他：Succinylcholine により高K血症および心室性頻脈を呈した片麻痺の一例，臨床麻酔3巻6号，昭54.
 石部裕一，他：， Total correction of congenital heart disease using deep hypothermia and complicated cardiac anomalies, Acta medica Kinki Univ. 4.2. 1979, 昭54.
 石部裕一，他：麻酔導入時の血漿カリウム低下について—Thiamylar, Ketamine. および NLA 法による導入，麻酔28巻12号，昭54.
 石部裕一，他：異常な CPK の高値を併なった破傷風の一例，外科41巻12号，昭54.
 石部裕一，他：循環血液量の推移からみた手術直前血液希釈法の検討，麻酔28巻9号，昭54.

宮本茂充, 他: 末期肺癌患者における癌性疼痛の対策, Brompton mixture の効果, 日本癌治療学会誌, 第14卷第6号, 昭54.

田中 寛, 倉田昌彦, 室本 仁: 縦隔疾患の C.T. スキャン, 臨床放射線, 24卷1号, 35~46, 昭54.

安田隆三郎, 他 4名: 右心房原発の粘液肉腫, 胸部外科32, 322~3, 昭54.

松原義人, 甲斐隆義, 他 8名: 特集/肺癌の外科療法におけるN因子: 縦隔鏡からの検討ならびにリンパ節における腫瘍特異抗体の検索, 胸部外科, 南江堂, 32卷7号, 487~491, 昭54.

人見滋樹, 甲斐隆義, 他 4名: 特集/胸部疾患の非観血的診断 I: 胸腔造影法—術前検査として, 胸部外科, 南江堂, 32卷10号, 昭54.

成毛韶夫, 甲斐隆義, 他: 昭54年度厚生省がん研究助成金による研究報告集(上), 435~456, 53-3, 肺がん早期発見における高危険群とそのスクリーニング法の向上に関する研究, 昭54.

浅井信明: 一側肺切除後の遺残胸腔の病態生理, 第19回日本胸部疾患学会総会誌, 昭54.

太田和夫: 側彎症の肺機能, 第1編側彎症の肺機能; 特に特発性側彎症の肺機能について, 側彎症の肺機能; 第2編治療の肺機能に及ぼす影響について, 京大胸部研紀要 46~74. Vol. 12, Nos. 1·2, 1979.